

コンビ ベビーカー スゴカル R エッグショック オンライン取扱説明書

品質保証書付

ご使用の前に必ずこのオンライン取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

■取りはずしてある部品は、本書をよく読んで正しく取り付けてください。

※日本語の説明書は、SG基準に適合した内容の説明書です。



安全基準A型

(1ヵ月～36ヵ月ころまで)



製品のイラストはイメージです。

タイプにより仕様が異なる可能性があります。

製品の仕様は、改善などのため、予告なしに変更することがあります。

もくじ

※もくじの項目をクリックすると、該当ページへ移動します。

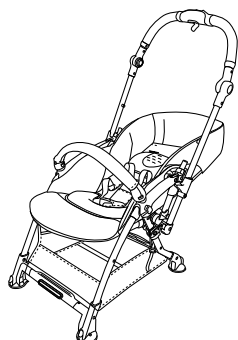
はじめに	
ご使用の前に	1
安全にご使用いただくために	3
各部のなまえ	7
ベビーカーの使いかた	
ベビーカーの開きかた	8
ハンドルの高さ調節のしかた	10
対面・背面の使いかた	11
ハンドルの切り替えかた	12
キャスターロックレバーの使いかた	14
ストッパーの使いかた	14
フロントガードの使いかた	15
幌の使いかた	16
幌のサイズを変える	17
幌窓の使いかた	17
シートベルト(股ベルト・腰ベルト・肩ベルト)の使いかた ..	18
リクライニングの使いかた	20
折りたたみかた	22
持ちカルグリップの使いかた	24
部品の取り付けかた・はずしかた	25
幌	25
カゴ	26
着脱シート	28
シートベルト	32
ダッコシート	33
ヘッドサポート	33
おしりサポート	34
頭部用エッグショックパッド	35
前後車輪のはずしかた	35
お手入れ方法	
日常のお手入れ	36
保管のしかた	37
その他	
点検とアフターサービスについて	38
ベビーカーの「標準使用期間」について	38
廃棄方法について	39
SGマークの被害者救済制度	39

ご使用の前に

- この製品は、一般家庭でお子さまを乗せ、外気浴、買い物などに使用するための1人乗り乳母車(ベビーカー)です。
- 望ましい連続使用時間: 2時間以内(ただし、生後7ヵ月以上を対象にした座位使用時は1時間以内)
- 使用できるお子さまの月齢: 生後1ヵ月[※]以上36ヵ月ころまで(お子さまの体重の目安15kg以下)
※生後1ヵ月とは、出生時に体重2.5kg以上かつ在胎週数37週以上を満たし、1ヵ月経過したお子さまを示します。
- 本製品は磁石を利用したバックルを使用しています。

開封されましたら各部品がそろっているかご確認ください。

箱の中には次のものが入っています。箱を開けたらすべてそろっていることを確認してください。



ベビーカー本体



ヘッドサポート



幌



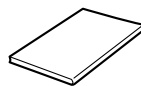
車輪(4個)



頭部用
エッグショックパッド
(ヘッドサポートに内蔵)



おしりサポート

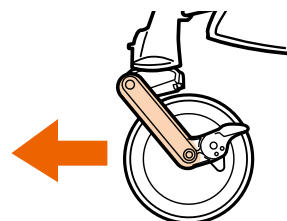


クイックスタートガイド

ヘッドサポート、おしりサポートはベビーカー本体に取り付けられています。車輪はカゴに入っています。

車輪の組み立て

- 車輪は後輪⇒前輪の順に取り付けます。
- 車輪をイラストの向きに取り付けてください。



⚠ 警告

- 本体を置くときに床が傷つかないように十分ご注意ください。
- 本製品に車輪を取り付けるときは接続部に指をはさまないよう慎重に行ってください。
- 部品を取りはずした状態でベビーカーを使用したり、ベビーカーを分解しないでください。
- ご使用の前に、前輪、後輪各2つずつ、合計4つの車輪が正しく取り付けられていることを確認してください。
- 部品、同梱品、オプションの着脱は、周りに人がいない平らな場所で行ってください。ベビーカーが転倒するなど、思わぬ事故が発生するおそれがあります。
- お子さまを乗せたまま部品、同梱品、オプションの着脱を行わないでください。
- 組み立ては必ず大人が行ってください。
- 車体を閉じた状態で、組み立てを行ってください。床を傷つけるおそれがあります。

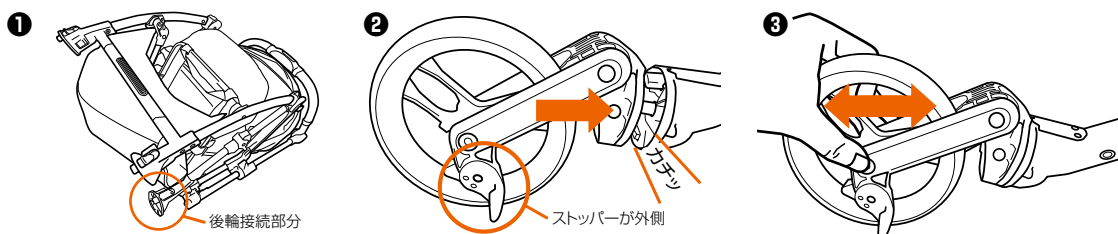
⚠ 注意

- 車輪の接続部に潤滑剤が付着しているため、衣服や床が汚れないようにご注意ください。

後輪の取り付けかた

- ① ハンドルを下にして車体を寝かせた状態にします。
- ② 車輪を袋から出し、後輪の接続部分にストッパーを外側にして「カチッ」と音がするまで差し込みます。
- ③ 差し込み後、2～3回引っぱり車輪が抜けないことを確認してください。

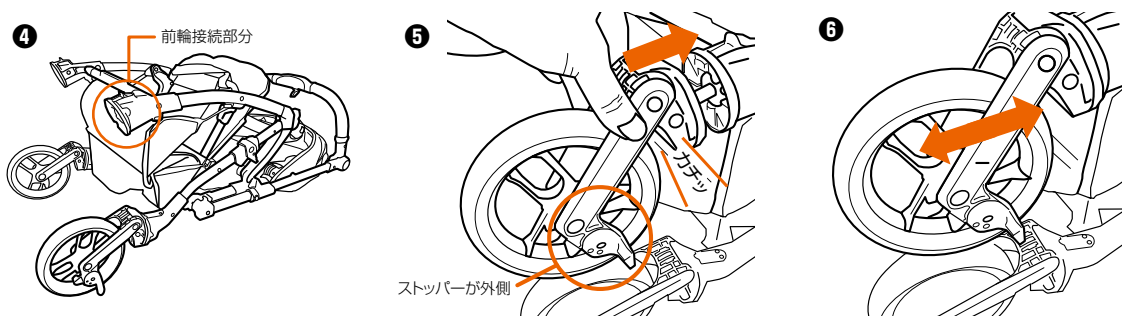
※反対側も同様の作業を行います。



前輪の取り付けかた

- ④ 後輪を付けたまま車体を寝かせた状態で作業を続けます。
- ⑤ 車輪を前輪の接続部分に、ストッパーを外側にして「カチッ」と音がするまで差し込みます。
- ⑥ 差し込み後、2～3回引っぱり車輪が抜けないことを確認してください。

※反対側も同様の作業を行います。

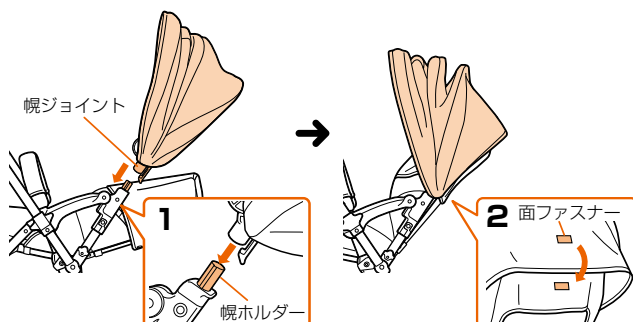


幌の取り付けかた

- 梱包時、幌は車体に固定されていません。

1. 幌ジョイントを幌ホルダーにしっかり差し込み固定する。
2. 背もたれを起こし、面ファスナー（1カ所）をとめる。

背もたれの起こしかたについては、21ページをご覧ください。



安全にご使用いただくために

表示	表示の内容
⚠警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。
⚠注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の可能性あります。

●お守りいただく内容の種類を次の表示で区分し説明しています。

⚠	警告/注意をうながす内容があることを告げるものです。
×	禁止行為であることを告げるものです。
ワンポイント	補足説明

⚠警告 取り扱いを誤ると重大な事故につながるおそれがあります。

●破損や異常が発生した場合は、ただちに使用を中止して当社コンシューマーブラザにご連絡ください。

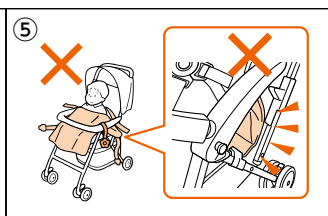
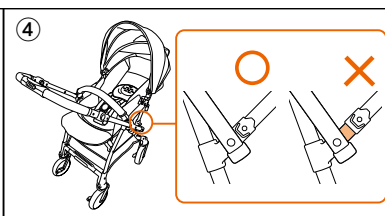
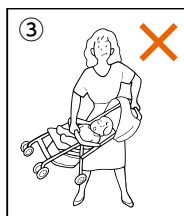
お子さまが落ちるおそれがあります。

- 必ずシートベルトを締め、正しく着用してください。左右のタンクを股バックルに取り付け後、ベルトを強く引っ張り、確実に取り付けられていることを確認してください。また、シートベルトを締めていても、万一の抜け出し、立ち上がりには十分注意してください。(①)
- お子さまは月齢が高くなるにつれ、周囲への好奇心が旺盛になります。力も強くなり自分でシートベルトをはずすおそれがありますので、常にお子さまの状態を確認してください。
- お子さまをベビーカーの中で立たせないでください。(②)



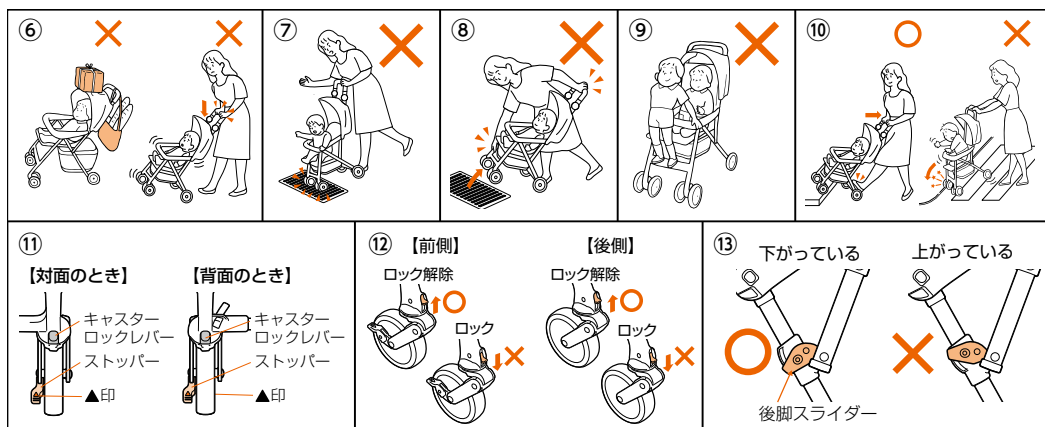
お子さまが落ちたりベビーカーが折りたたまれるおそれがあります。

- お子さまを乗せたまま、ベビーカーを持ち上げないでください。(③)
- 開閉ロックが確実にかかっていること（ベビーカーが完全に開いた状態であるか）を確認してから使用してください。(④)
- ベビーカーの開閉時やハンドル切り替え時に、ベビーカーの着脱シートやシートベルト、ブランケット、おもちゃなどをベビーカー本体にはさみ込まないよう十分注意してください。開閉ロックがかからず折りたたまれたり、キャスターが自動ロックされず転倒するおそれがあります。(⑤)



ベビーカーが転倒してお子さまが落ちるおそれがあります。

- カゴ以外のところに荷物をのせたり、ハンドルに荷物をつるさないでください。ベビーカーが不安定になり転倒してお子さまが落下するおそれがあります。また、ハンドルに寄りかかったり、ハンドルを無理に押し下げるなど、過度の荷重はかけないでください。破損・故障の原因となります。(⑥)
- 排水溝のふた(グレーチング)や踏切、路面の溝など、溝がある路面を通るときは、溝に車輪をとられたいはさまったりするおそれがあります。十分注意して進んでください。(⑦)
- 車輪が溝にはさまったときは、はさまった方のフレーム(パイプ)とハンドルを持って、車輪を引き上げてください。その際、お子さまや荷物が乗っている状態では、ベビーカー全体を持ち上げないでください。(⑧)
- ベビーカーに同時に2人以上のお子さまを乗せたり、お子さまをシート以外のところに乗せないでください。(⑨)
- 無理な段差の乗り越えは、前輪に衝撃が加わり、ベビーカーが転倒するおそれがあります。また、破損・故障の原因となります。縁石などの段差を乗り越える場合は、わずかな段差でもいったん止まり、ステップや後脚ステップに足をかけてハンドルを手前に引き、必ず前輪を浮かせて段差を乗り越えてください。(⑩)
- お子さまを乗せ降ろしする際は、ベビーカーが不安定になり転倒するおそれがありますので、しっかりと支えてください。また、ハンドルに寄りかかったり、ハンドルを無理に押し下げるなど、過度の荷重はかけないでください。破損・故障の原因となります。
- ホームと電車との段差やすき間に車輪がはさまったり、引っかかったりしてベビーカーが転倒するおそれがあります。電車から降りる際は、使用者が先に降りると電車とホームのすき間を確認しやすくなります。十分注意して乗降してください。
- 階段、エスカレーター、大きな段差のあるところ、また、砂場、砂浜、河原、ぬかるみなどの悪路では使用しないでください。
- 坂道ではハンドル切り替え操作を行わないでください。思わぬ方向に動き出すおそれがあります。
- ハンドル切り替え中にベビーカーを動かさないでください。キャストロックがロックされず、思わぬ方向に動き出すおそれがあります。
- 背面状態では、後脚スライダーに触れないでください。キャストのロックがはずれるおそれがあります。
- 使用する前やハンドル切り替え後、押す人側のストッパーの▲印がキャストロックレバーと向きあい、キャストが確実に自動ロックされていることを確認してください。(⑪)
- ハンドルを切り替えるときは、必ず4カ所ともキャストのロックを解除してください。(⑫)
- ハンドルを背面に切り替えた後は、左右の後脚スライダーが下がっていることを確認してください。(⑬)
- この製品はランニングやスケートに適していません。



ベビーカーが動き出したり、転倒するおそれがあります。

- 停止中は必ずストッパーをかけてください。ストッパーをかけていても、動き出したり転倒するおそれがあります。(14)
- お子さまを乗せたまま、ベビーカーから離れないでください。(15)
- ベビーカーは空車であっても坂の途中、車道に近い歩道上など危険な場所に放置しないでください。(16)



お子さまが指や手をはさんだり、ケガをするおそれがあります。

- お子さま自身での乗り降りは、転倒や指はさみなどの危険がありますのでおやめください。(17)
- ベビーカーの開閉やリクライニング操作時、ハンドル切り替え、幌の開閉など、お子さまの指や手に注意し操作を行ってください。指や手をはさんだりするおそれがあります。
- 部品、同梱品、オプションは純正品のみを使用し、当社指定の製品または部品以外は使用しないでください。非純正部品の取り付けによりベビーカーのバランスが崩れて転倒するなど、思わぬ事故が発生するおそれがあります。
- 窒息の危険を防ぐため、ビニール袋はすぐにお捨てください。
- ベビーカーを火気、高温、プール、または電源の近くに置かないでください。
- バックルの磁石がペースメーカーの作動に影響をおよぼすおそれがあります。ペースメーカーをご使用のお子さまを本製品に乗せないでください。
- バックルを止める際はお子さまの手足や衣類をはさまないように注意してください。
- バックルの磁石に異物が付着するおそれがあります。使用前に異物の付着がないことを確認してください。
- 磁気による損傷を受けやすいものは近づけないでください。(磁気カード、腕時計、電子機器など)
- 部品を取りはずした状態でベビーカーを使用したり、ベビーカーを分解しないでください。
- ご使用前に、前輪、後輪各2つずつ、合計4つの車輪が正しく取り付けられていることを確認してください。
- 部品、同梱品、オプションの着脱は、周りに人がいない平らな場所で行ってください。ベビーカーが転倒するなど、思わぬ事故が発生するおそれがあります。
- お子さまを乗せたまま部品、同梱品、オプションの着脱を行わないでください。



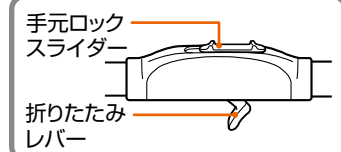
⚠️注意

取り扱いを誤ると傷害を負ったり、ベビーカーが破損するおそれがあります。

- お子さまを乗せる以外の目的で使用しないでください。目的外の使用では破損などのおそれがあります。
- お子さまにベビーカーを操作させないでください。転倒や思わぬ事故につながります。
- ベビーカーに大人が腰かけたり、過度の荷重を加えないでください。破損、故障の原因となります。
- ベビーカーを押すときは走らないでください。走るとキャスターの動きが悪くなったり、転倒などの事故につながるおそれがあります。
- 雪が積もっているところや凍結したところなど、すべりやすい路面では使用しないでください。ベビーカーだけでなく使用者も転倒するおそれがあります。
- 風の強いとき、雷のときは使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 夏季の晴天日中などは、路面の影響によりベビーカー内の温度が高くなるため、長時間の使用は避けてください。
- ベビーカーを保管するときは横向きにせず、上に荷物などを重ねないでください。
また、ベビーカーを立てた状態で保管する場合は、必ずストッパーをかけてください。
- 製品の改造や不当な修理をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ご使用の前に、締結部品などにゆるみがないか確認してください。ゆるみがある場合は使用せず、必ず当社コンシューマープラザにご連絡ください。重大な事故につながるおそれがあります。
- 長時間の使用禁止
長時間連続してのご使用は、お子さまの負担となります。1時間以内で休憩をとるなどしてください。
- 鉄道やバスの中での使用について
本製品は、鉄道やバスの中で使用することを目的として設計されたものではありません。お客様の責任により、本製品を鉄道やバスの中で使用するときは、カーブやブレーキなどで転倒するおそれがありますので、必ずストッパーをかけて、お子さまに肩と腰のシートベルトを装着の上、十分注意してご使用ください。また、事前に各鉄道、バス事業者が示すベビーカー利用の可否、方法をご確認ください。ご利用条件を満たさないときは、ご使用になれません。なお、ご利用条件を満たす場合でも、鉄道やバスの中でベビーカーを使用した際の安全を保証するものではありません。
- お子さまの足が車輪や地面につく場合は使用しないでください。足をケガするおそれがあります。
- 坂道の走行では、不安定なため転倒するおそれがあります。速度を落とし、十分注意して走行してください。
- フロントガードを引っぱって使用したり、ふりまわしたりしないでください。破損やお子さまのケガの原因となります。
- フロントガードには過度の力を加えないでください。また、必要以上に広げたりしないでください。故障や破損の原因となります。
- 背もたれを最も倒した状態でお子さまが窮屈な場合は、背もたれを中間位置まで起こしてご使用ください。ただし、この方法は首がすわってからのお子さまに限ります。
- おすわりができないお子さまの場合は、背もたれを倒した状態でご使用ください。
- お子さまの頭がシート上部の壁面に当たる場合は、ヘッドレストが起き上がらない位置まで背もたれを起こして使用してください。
- お子さまを乗せたまま背もたれを倒すときは、必ずお子さまの体を支えてください。
- カゴには鋭利なものや大きすぎるものを入れないでください。カゴが損傷するおそれがあります。

各部のなまえ

〔手元操作部〕



ハンドル
グリップ

アジャスト
ボタン(左右)

フロントガード

ガードカバー

ガードボタン
(左右)

ハンドル

持ちカルグリップ

カゴ

ステップ

キャスターロック
レバー(前輪左右)

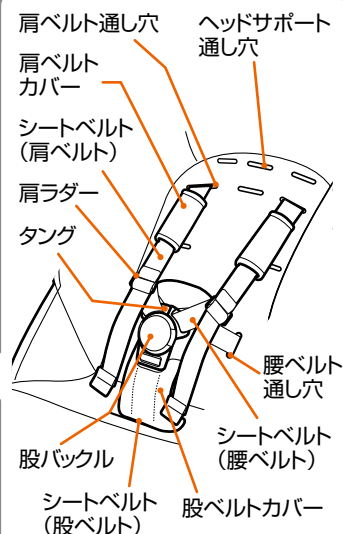
ストッパー
(前輪左右)

ヘッドレスト

着脱シート

アームレスト

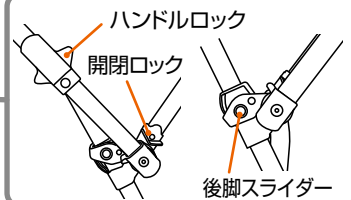
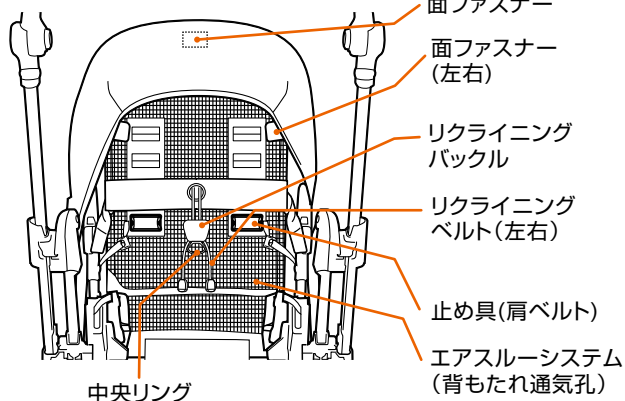
〔シート中央部〕



●ダッコシート



〔背もたれ部〕



キャスターロック
レバー(後輪左右)

ストッパー
(後輪左右)

後脚ステップ

後脚ステー

ベビーカーの開きかた

⚠ 警告

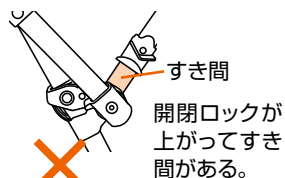
- ベビーカーを開くときには、そばに人（特に小さいお子さま）を近づけずに行ってください。指や手をはさむおそれがあります。
- ベビーカーを開いた後、開閉ロックがかかっていることを必ず確認してください。急に折りたたまれるおそれがあります。（図A参照）
- 手元ロックスライダーが元の位置に戻り、折りたたみがロックされていることを確認してください。
- 使用する前に、押す人側のストッパーの▲印がキャスターロックレバーの方向を向いており、キャスターが確実に自動ロックされていることを確認してください。ベビーカーが転倒してお子さまが落ちるおそれがあります。（図B参照）

図A

●ロックされている



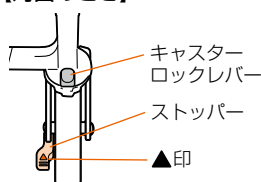
●ロックされていない



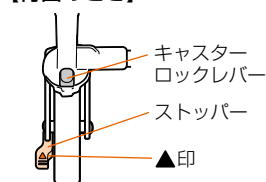
※開閉ロックの状態をわかりやすくするために、対面時をイラストで表現しています。

図B

【対面のとき】



【背面のとき】

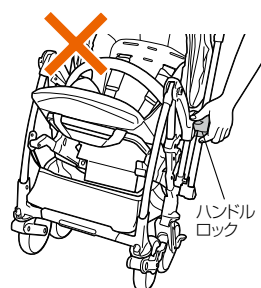


⚠ 注意

- お子さまにベビーカーを操作させないでください。転倒や思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ベビーカーを持ち上げた状態で、折りたたみレバーを握りロックを解除すると、破損のおそれがあります。
- 手元ロックスライダーをスライドさせずに折りたたみレバーを握らないでください。無理に握ると破損するおそれがあります。
- ベビーカーを開く前に、ハンドル切り替えの操作（ハンドルロックの解除）を行わないでください。ハンドルが正規の位置でロックされず、ベビーカーが破損するおそれがあります。（図A参照）

図A

ベビーカーを開く前に、ハンドルロックを操作しない。



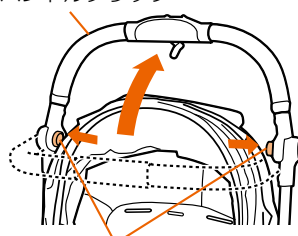
- 本製品はハンドルが背面位置の状態でのみベビーカーの開閉が可能です。ベビーカーを開くときは、ハンドル切り替えの操作（ハンドルロックの解除）はしないでください。

1. 左右のアジャストボタンを同時に押しながら、ハンドルグリップをまっすぐの位置に戻す。

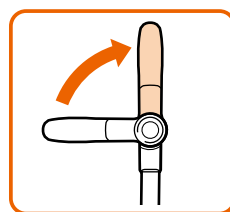
（「ハンドルの高さ調節のしかた」10ページをご覧ください）

※梱包時は、ハンドルグリップが折り曲げられています。

ハンドルグリップ



アジャストボタン

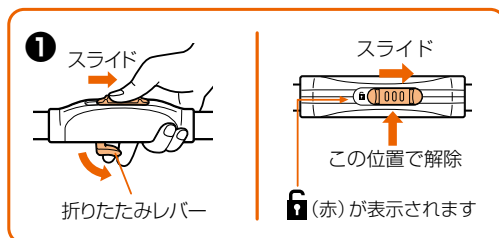


2. ①手元ロックスライダーを矢印方向にスライドさせながら折りたたみレバーを握り、

②ハンドルを持ち上げ、

③そのままハンドルを手前に倒す。

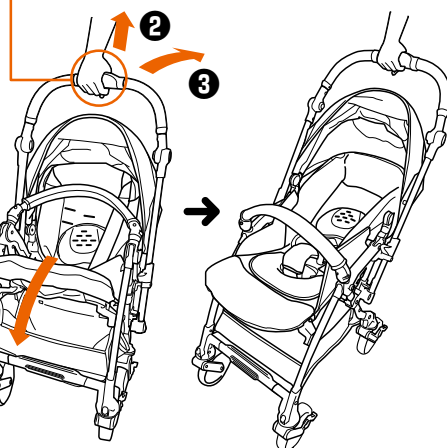
ベビーカーが完全に開きます。



ワンポイント



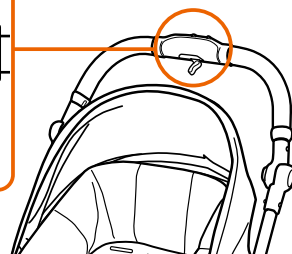
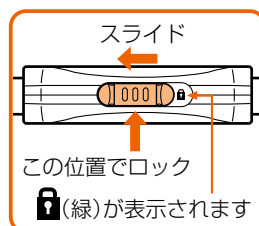
- ・ベビーカーを地面につけた状態から折りたたみレバーを握り操作してください。ベビーカーを持ち上げた状態ではベビーカーを開くことができません。
- ・背もたれを起こした状態で折りたたんだとき、折りたたみレバーが固くなります。その場合は背もたれを起こすか、ベビーカーを下に押しながら、折りたたみレバーを引くと開きやすくなります。



3. 手元ロックスライダーから手を離し、折りたたみをロックする。

折りたたみレバーが元の位置に戻り、自動でロックされます。

ロックされていることを必ず確認してください。



ハンドルの高さ調節のしかた

●ハンドルグリップの角度を変えてハンドルの高さを調節することができます。

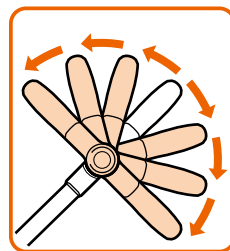
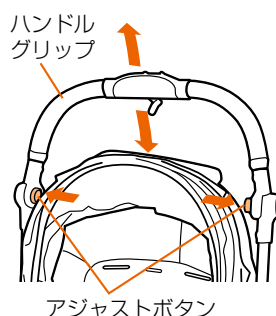
⚠ 注意

- ベビーカーを押しながらハンドルの高さの調整をしないでください。
- ベビーカーを折りたたむときは、ハンドルグリップの角度は必ず、まっすぐの位置に戻してください。

1. 左右のアジャストボタンを同時に押しながら、ハンドルグリップの角度を調節する。

2. 使用する角度でアジャストボタンから手を離す。

ハンドルの高さを切り替えた後、ハンドルグリップを上下させても動かないことを確認してください。ハンドルには遊びがあり、多少動きます。



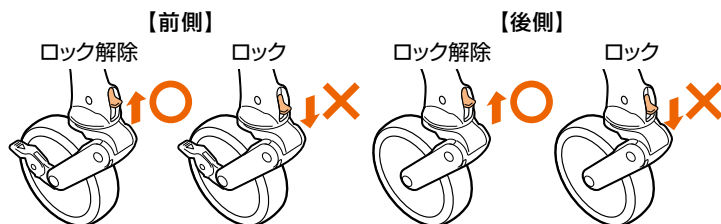
対面・背面の使いかた

- 方向転換がスムーズに行えるよう車輪の向きが変わる機構をキャスターといいます。
- この製品は対面、背面どちらの状態でもハンドルを切り替えることにより自動的に押す人側のキャスターがロックされ、進行方向前方のキャスターが動くようになっています。

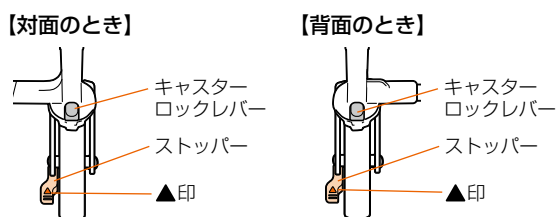
⚠ 警告

- ハンドルを切り替えるときは、お子さまがアームレストに手をかけていないことを確認してから行ってください。指や手をはさむおそれがあります。
- ハンドルを切り替えるときは、必ず4ヵ所ともキャスターのロックを解除してください。押す人側のキャスターが自動ロックされず、ベビーカーが転倒してお子さまが落ちるおそれがあります。(図A参照)
- 坂道ではハンドル切り替え操作を行わないでください。思わぬ方向に動き出し、ベビーカーが転倒してお子さまが落ちるおそれがあります。
- ハンドル切り替え後、進行方向に少し前進させ、押す人側のストッパーの▲印がキャスターロックレバーの方向を向いており、キャスターが確実に自動ロックされていることを確認してください。ベビーカーが転倒してお子さまが落ちるおそれがあります。(図B参照)
- ハンドル切り替え中にベビーカーを動かさないでください。4輪ともキャスターがロックされず、思わぬ方向に動き出し、ベビーカーが転倒してお子さまが落ちるおそれがあります。
- ハンドルを背面に切り替えた後は、左右の後脚スライダーが下がっていることを確認してください。キャスターのロックがはずれ、ベビーカーが転倒してお子さまが落ちるおそれがあります。
- 背面状態では、後脚スライダーに触れないでください。キャスターのロックがはずれ、ベビーカーが転倒してお子さまが落ちるおそれがあります。

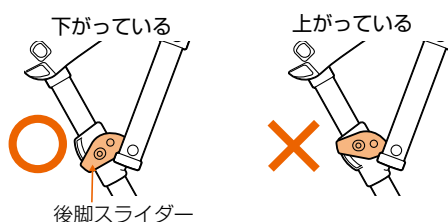
図A キャスターロックレバーを上げる



図B 押す人側のストッパーの▲印がキャスターロックレバーの方向を向いており、キャスターが確実にロックされていることを確認



図C 後脚スライダーが下がっていることを確認



⚠ 注意

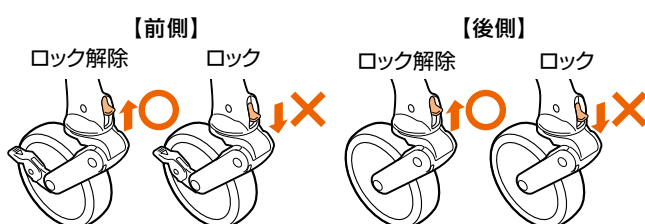
- ハンドルを切り替えるときは、お子さまの正面側からお子さまの様子を確認しながら、操作してください。
- ベビーカーを押しながらハンドルの切り替えをしないでください。
- 対面で使用するときには、必ずベビーカーを完全に開いた後にハンドルの切り替えを行ってください。
- ベビーカーを開く前に、ハンドル切り替えの操作（ハンドルロックの解除）を行わないでください。ハンドルが正規の位置でロックされずに、ベビーカーが破損するおそれがあります。

ハンドルの切り替えかた

- 対面から背面に切り替えの際は最初に車体を手前に引き、車輪の向きが変わったことを確認してからハンドル切り替え操作を行ってください。

1. 4カ所のキャスターロックレバーがすべて解除されていることを確認する。

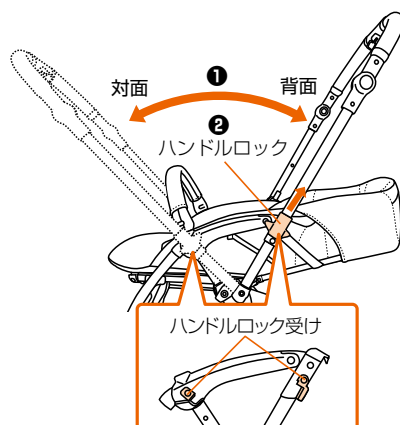
キャスターロックレバーが
上がってロックが解除され
ていること



2. ① ハンドル切り替えの操作（ハンドルロックの解除）をするときは、必ずベビーカーを開き、開閉ロックがかかっていることを確認する。

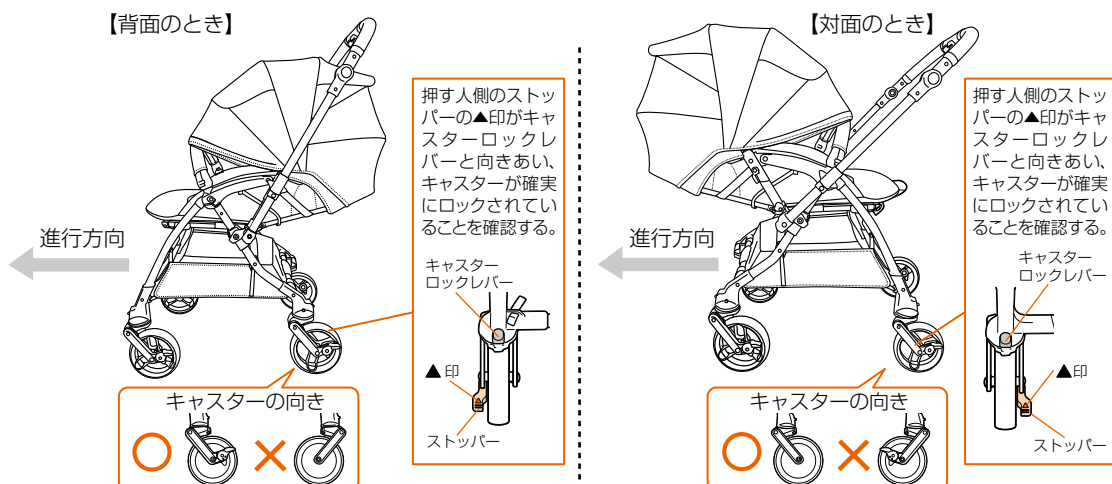
② 左右のハンドルロックを上に取り上げ、ロックを解除する。

③ ハンドルの向きを変えた側のハンドルロック受けにしっかりとロックしたことを確認する。



3. 進行方向に少し前進させる。

押す人側の左右のキャスターの向きが変わり、ストッパーの▲印がキャスターロックレバーと向きあい、キャスターが確実にロックされていることを確認する。



ワンポイント

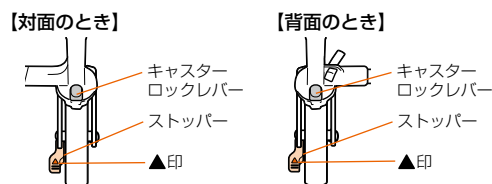


・ベビーカーを後進させる際に、構造上後輪がねじれて進みにくくなることがあります。ねじれたときは前進していただくか、後輪を浮かして後輪のねじれを戻してください。

・ハンドルを切り替えた後、次の点を確認してください。

- ①左右のハンドルロックがロック受けにかかっている。
- ②ハンドルを上下させてもロック受けからはずれない。
- ③背面に切り替えた後、左右の後脚スライダーが下がっている。(11ページの警告欄の図Cをご覧ください。)

④キャスターの向きが正しいときは、押す人側のストッパーの▲印がキャスターロックレバーと向きあっている。



⚠ 注意

段差を乗り越えにくい場合、対面使用時はステップ、背面使用時は後脚ステップに足をかけて前輪を浮かせ、段差を乗り越えてください。または、対面時に限り、使用者が先に段差に上がるなどの方法で段差を乗り越えてください。

キャスターロックレバーの使いかた

- 通常使用時やハンドルを切り替えるときは、必ず4カ所のキャスターロックレバーを上げてロックを解除してください。
- 坂道や凹凸のある路面では、一時的に進行方向側のキャスターを左右ともロックすると押しやすくなります。

キャスターを使用する場合

進行方向側のキャスターロックレバーを左右とも上げ、ロックを解除する。

通常はこの状態でご使用ください。押す人側のキャスターは自動でロックされます。

【背面のとき】

進行方向



【対面のとき】

進行方向



キャスターを使用しない場合

進行方向側のキャスターロックレバーを左右とも下げ、ロックする。

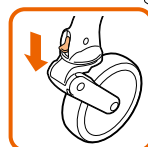
【背面のとき】

進行方向



【対面のとき】

進行方向



ワンポイント

押す人側のキャスターは自動ロックされますので、手動のキャスターロックレバーは使用できません。

ストッパーの使いかた

- ベビーカーを停止させているときには、必ず押す人側のストッパーのロックをかけてください。
- ストッパーとキャスターロックレバーは別の機能です。

⚠ 警告

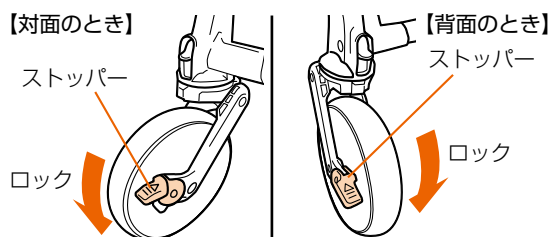
- ストッパーを過信しないでください。ストッパーをかけていても動き出したり、転倒するおそれがあります。
- お子さまを乗せたままベビーカーから離れないでください。また、ストッパーは左右ともかけて使用してください。ベビーカーが動き出したり転倒するおそれがあります。

⚠ 注意

- 空車であっても、ベビーカーから離れるときは必ず左右ともストッパーのロックをかけてください。ストッパーのロックが不完全な場合、動き出すことがあります。
- ベビーカーを前後進させる前に、ストッパーのロックが解除されていることを確認してください。ストッパーをロックしたまま前後進させると、変形や破損の原因になります。

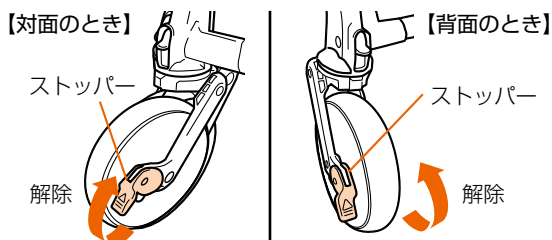
ストッパーをロックするとき

1. 押す人側の車輪の左右のストッパーを押し下げてロックする。
2. ベビーカーを軽く前後に動かして、ストッパーのロックがかかっていることを確認する。



ストッパーのロックを解除するとき

ストッパーを押し上げる。



フロントガードの使いかた

- お子さまの乗せ降ろし時にフロントガードを開くと、よりスムーズに乗せ降ろしができます。
- フロントガードを取りはずした状態でもご使用できます。

⚠ 警告

- フロントガードに関係なく、お子さまを乗せるときには必ずシートベルトを締めてください。フロントガードはお子さまの抜け出しや立ち上がりを防止するものではありません。
- ガードボタンはお子さまには操作させないでください。落下などのおそれがあります。
- ベビーカーを開いた状態でフロントガードをつかんでベビーカーを持ち運ばないでください。手がすべったり、フロントガードが抜け落ちる可能性があります。
- お子さまを乗せた状態ではフロントガードをつかんでベビーカーを持ち運ばないでください。手がすべったり、フロントガードがはずれお子さまがケガをする可能性があります。

⚠ 注意

- フロントガードの片側をはずした状態でフロントガードを引っばって使用したり、ふりまわしたりしないでください。破損やお子さまのケガの原因となります。
- フロントガードには過度の力を加えないでください。また、必要以上に広げたりしないでください。故障や破損の原因となります。
- フロントガードを片側だけはずした状態で保管しないでください。フロントガード本体の変形の原因となります。取りはずしたフロントガードはなくさずに保管してください。

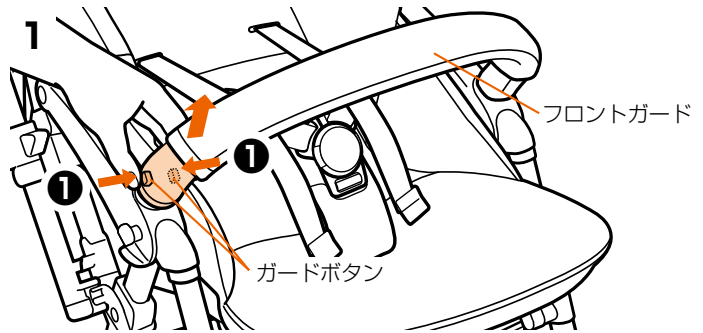
フロントガードを開くとき

1. 2つのガードボタン(①)を押しながらまっすぐ上に引き抜く。

ワンポイント

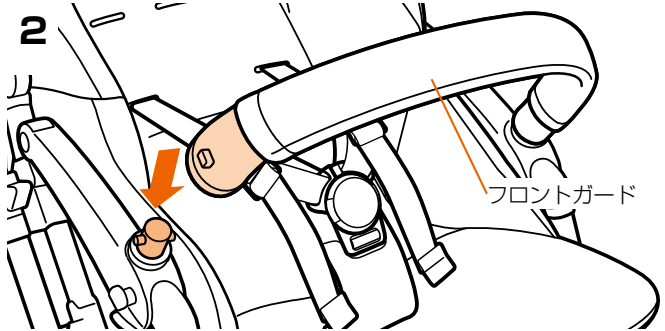


フロントガードは左右どちらからでも開閉ができます。



フロントガードを閉じるとき

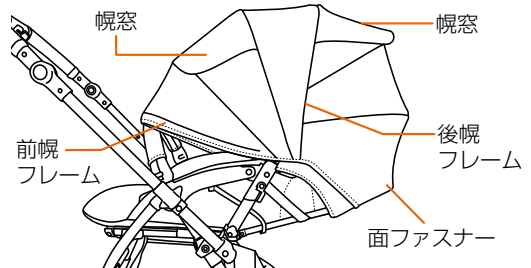
2. フロントガード用突起にあわせて押し込む。
フロントガードを引っぱって、はずれないことを確認する。



幌の使いかた

- 幌を取り付けたままベビーカーを折りたたむことができます。折りたたむときは、必ず幌をたたんで後側にまとめてください。
- 幌の取り付けかたについては、2ページをご覧ください。

幌各部のなまえ



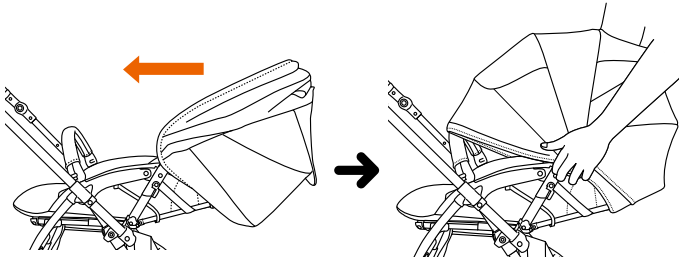
⚠ 警告

幌を開閉するときは、お子さまの指や手に注意し操作を行ってください。指や手をはさむおそれがあります。

幌のサイズを変える

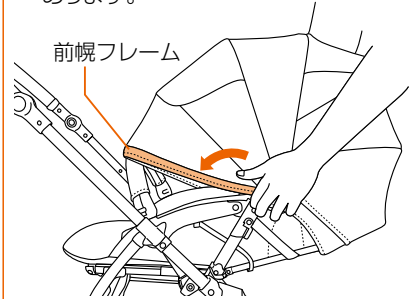
大きなサイズで使用するとき

両手で幌フレームを持ち幌を前に広げる。



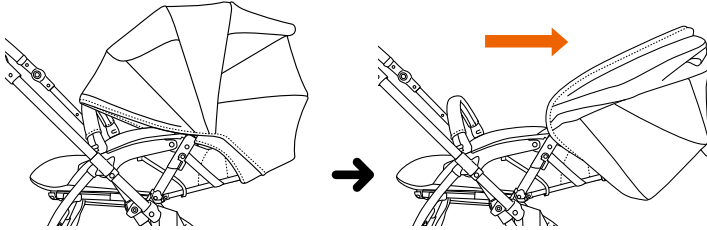
ワンポイント

幌を広げるときは、両手で前幌フレームの根元部分を持って『カチッ』と音になるまで広げてください。無理に広げると幌が変形するおそれがあります。



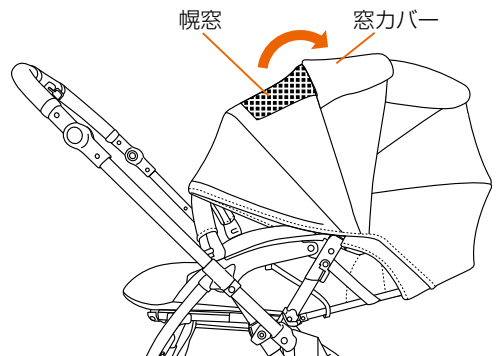
小さなサイズで使用するとき

幌フレームを後側に引いて幌をまとめる。



幌窓の使いかた

●窓カバーを開けると、お子さまの様子を見ることができます。



シートベルト(股ベルト・腰ベルト・肩ベルト)の使いかた

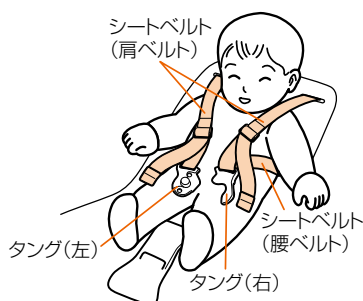
- シートベルトとは、股ベルト、腰ベルト、肩ベルトの総称です。
- 本製品は磁石を利用したバックルを使用しています。

⚠ 警告

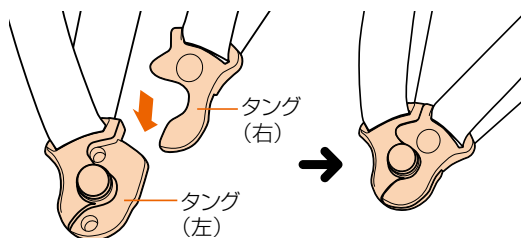
- お子さまを乗せたときは必ずシートベルトを締めてください。締めずに乗せたり、ベルトの締めかたが不完全な場合、使用中にお子さまが落ちるおそれがあります。また、シートベルトを締めていても、万一の抜け出し、立ち上がりには十分注意してください。
- シートベルトの長さはお子さまの体にあわせて調節し、抜け出さないようにしっかりと締めてください。シートベルトが長すぎるとお子さまの首に巻き付くおそれがあります。
- お子さまを乗せたまま背もたれを倒す場合、必ず肩ベルトをゆるめてから操作してください。操作後は肩ベルトを適切な長さに調節してください。
- 左右のタングをあわせる際に、肩ベルトを交差させないでください。お子さまの首を圧迫するおそれがあります。
- バックルの磁石がペースメーカーの作動に影響をおよぼすおそれがあります。ペースメーカーをご使用のお子さまを本製品に乗せないでください。
- バックルを止める際はお子さまの手足や衣類をはさまないように注意してください。
- バックルの磁石に異物が付着するおそれがあります。使用前に異物の付着がないことを確認してください。
- 磁気による損傷を受けやすいものは近づけないでください。(磁気カード、腕時計、電子機器など)

シートベルトを締めるとき

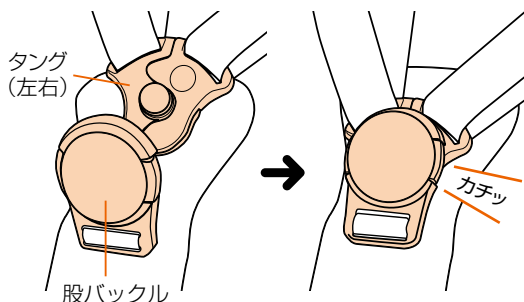
1. お子さまをベビーカーに座らせ、
お子さまの腕を左右のシートベルトに通す。



2. 左右のタングを組み合わせる。



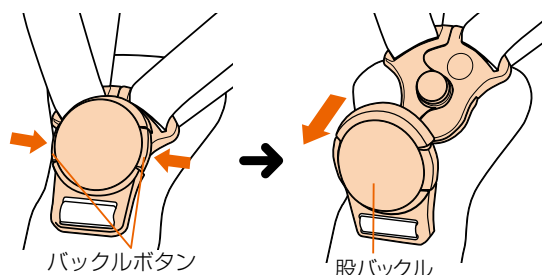
3. 2で組み合わせたタングの上に、股バックルを重ね、「カチッ」と音がすることを確認する。



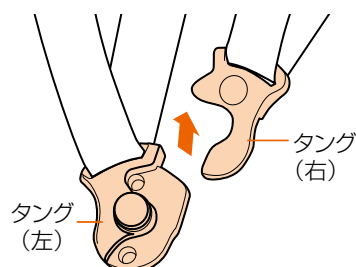
4. タングと股バックルを引っばってはすれないことを確認する。

シートベルトをはずすとき

1. 両脇のバックルボタンを同時に押し、股バックルを上引き上げ、はずす。



2. タングを前後にはずす。



ワンポイント



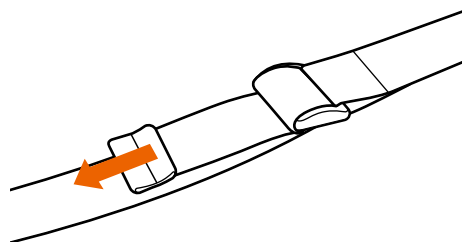
・背もたれを頻繁に倒したり起こしたりする月齢期は、下の肩ベルト通し穴を使用してください。肩ベルト通し穴の位置を変えるときは、「着脱シートのはずしかた、取り付けかた」(28ページ)をご覧ください。確実に取り付けてください。

シートベルトの調節のしかた

肩・腰ベルトの長さを調節するとき

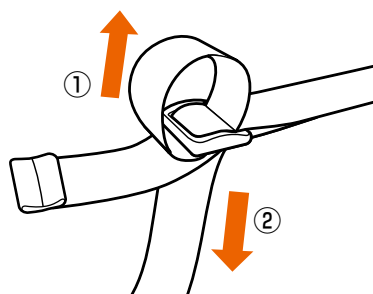
【締めるとき】

ベルトの先端を矢印の方向に引く。



【ゆるめるとき】

肩ラダー表側からベルトを矢印①の方向に引きベルトをゆるめる。肩ラダー裏側を通るベルトを矢印②の方向に引く。



⚠ 警告

肩・腰ベルトの長さは、ベルトの端が3cm以上残るように調節してください。使用中に肩・腰ベルトが抜けて、お子さまが落ちるおそれがあります。取り付け後、肩・腰ベルトを強く引っ張り、それぞれの肩ラダーから抜けないことを確認してください。

ワンポイント



・ベルトの調節の目安がわからない。
→お子さまとベルトの間に、大人の指の第2関節が入るくらいのすき間が目安です。

股ベルトの長さを調節するとき

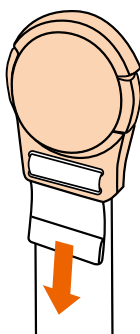
【締めるとき】

ベルト先端を矢印の方向に引く。

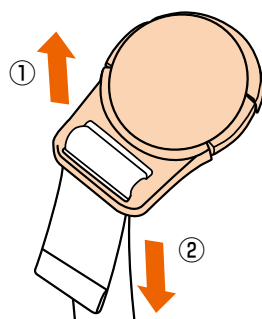
【ゆるめるとき】

股バックルを矢印①の方向に引き上げながら、股バックル裏側を通るベルトを矢印②の方向に引く。

【締めるとき】



【ゆるめるとき】



⚠ 警告

股ベルトの長さは、ベルトの端が3cm以上残るように調整してください。使用中に股バックルが抜けて、お子さまが落ちるおそれがあります。

ワンポイント



締めるときの長さ調整の目安は、ベルトの端から5～8cm程度です。
股ベルトは取りはずしできません。

リクライニングの使いかた

⚠ 警告

- リクライニング操作時は、そばに人（特に小さいお子さま）を近づけずに行ってください。指や手をはさむおそれがあります。
- お子さまを乗せたままリクライニング操作する場合、背もたれを倒すときは必ず肩ベルトをゆるめてから操作してください。
- リクライニング操作後は、シートベルトを適切な長さに調節してください。

⚠ 注意

- ベビーカーを押しながらリクライニング操作をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子さまを乗せたままリクライニング操作するときは、急にリクライニング角度が変わらないように十分ご注意ください。
- お子さまを乗せたまま背もたれを倒すときは、必ずお子さまの体を支えてください。
- おすわりができないお子さまの場合は、最も倒した状態から中間位置まで起こした状態でご使用ください。

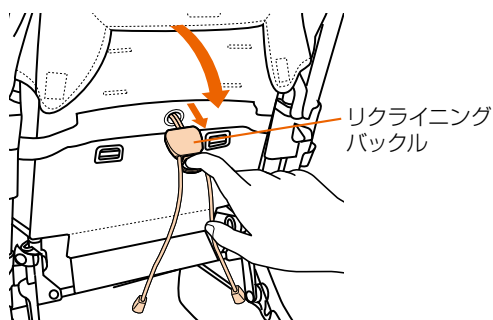
ワンポイント



- リクライニングの使いかたの目安
 - ・1ヵ月～首がすわるまで
→背もたれは最も倒した状態
 - ・首がすわってから、1人でおすわりができるまで
→背もたれは最も倒した状態から中間位置まで起こした状態
 - ・1人でおすわりができるようになったら
→背もたれは最も倒した状態から最も起こした状態
- 背もたれを最も寝かせて使うと、シートが狭く感じる
→お子さまの首がすわってからに限り、背もたれを中間位置まで起こしてご使用ください。

背もたれの倒しかた

1. 片方の手でお子さまの体を支え、
他方の手で、リクライニングバック
ルの中央リングを引っばる。



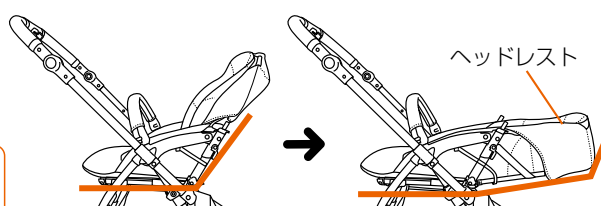
2. 背もたれを倒す。

ヘッドレストが起き上がってきます。
(ムービングヘッドガード機能)

ワンポイント



1人でおすわりができるお子さまでヘッド
レストの位置に頭がくる場合には、背もた
れを倒したときに無理な姿勢になりますの
で、ヘッドレストが起き上がらない位置でと
めてください。



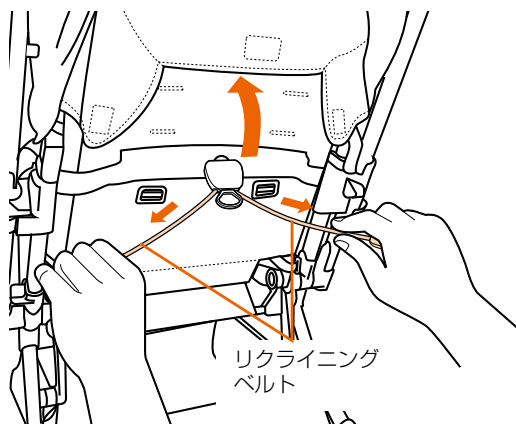
背もたれの起こしかた

背もたれを起こすときは、お子さまの
体重が背もたれにかかっていない状
態で操作をする。はじめに背もたれ
を前方に持ち上げてから、リクライニ
ングベルトを左右に引っばる。

ワンポイント



お子さまの体重を背もたれにかけたまま
で、背もたれを起こさないでください。リク
ライニングベルトやリクライニングバックル
が破損するおそれがあります。



ワンポイント

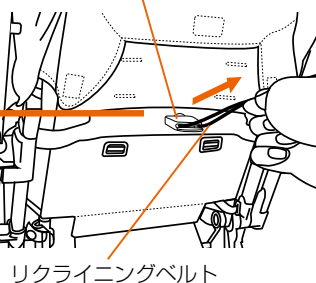


両方のリクライニングベルトを片手で束
ねて持ち、上方向に引くことで背もたれ
を起こすことができます。

リクライニング
バックル

リクライニング
ベルト

リクライニングバックル



折りたたみかた

- 幌を取り付けたままベビーカーを折りたたむことができます。
折りたたむときは、必ず幌を後側にたたんでまとめてください。
- 折りたたむときは、4カ所のキャスターロックレバーをすべて解除していることを確認してください。

⚠ 警告

ベビーカーを折りたたむときには、そばに人（特に小さいお子さま）を近づけずに行ってください。指や手をはさむおそれがあります。

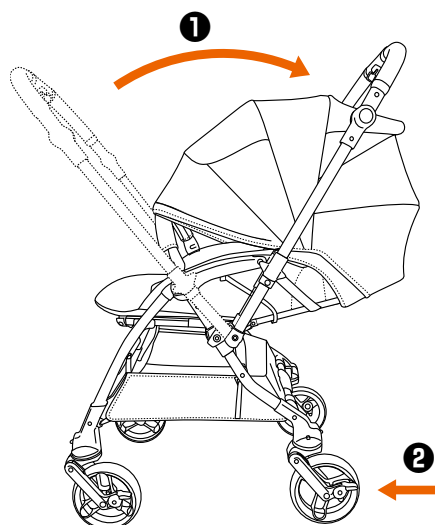
⚠ 注意

- 折りたたみ後、手元ロックスライダーがロックされているか確認してください。また、折りたたみ操作時以外は手元ロックスライダーを握らないでください。
- 手元ロックスライダーをスライドさせずに折りたたみレバーを握らないでください。無理に握ると破損するおそれがあります。
- 何かに引っかかっていたり、はさみ込まれている感じが合った場合には、1度開いて原因を確認してください。無理に折りたたむと破損するおそれがあります。
- カゴに荷物を入れたままベビーカーを折りたたむときは、無理なく折りたたみできることを確認してください。ベビーカーの破損や荷物のつぶれの原因となります。変形ややぶれやすい荷物は避けてください。
- 荷物を入れたまま折りたたむ場合は、荷物を入れていない状態に比べて転倒しやすくなります。また、荷物を入れたまま折りたたむ際は、開閉ロックがしっかりかかっていることを確認してください。
- 折りたたむときは、幌がたたまれ、後側にまとめられていることを確認してください。幌の変形や破損の原因になります。
- 車のトランクなどに入れて外出する場合は、幌に負荷がかからないようにしてください。幌の変形や破損の原因になります。
- 折りたたむときは、4カ所のキャスターロックレバーをすべて解除してください。キャスターが誤った向きでロックされていると、ベビーカーが開きづらくなり、無理に開こうとすると破損するおそれがあります。
- 折りたたむときは、ハンドルグリップの角度をまっすぐの位置に戻してください。

1. ①4カ所のキャスターロックレバーをすべて解除し、ハンドルを背面位置にする。

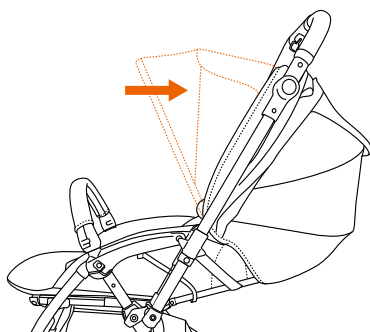
②進行方向に少し前進させ、押す人側のキャスターをロックさせる。

（①、②については、「ハンドルの切り替えかた」12ページをご覧ください。）

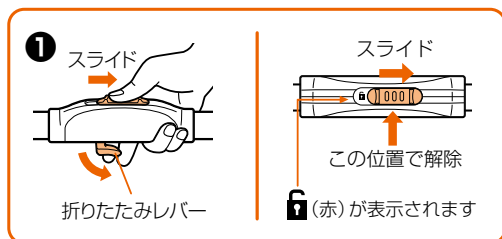


2. 幌をたたんだ状態にする。

幌フレームを後側に引いて幌をまとめます。



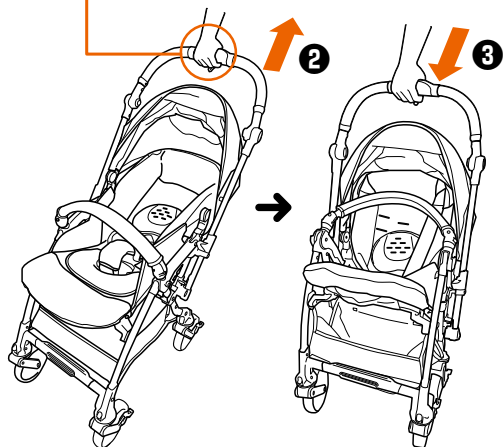
3. ①手元ロックスライダーを矢印方向にスライドさせながら折りたたみレバーを握り、
- ②後輪を支点にして、車体を傾け、
- ③そのままハンドルを押し下げる。



ワンポイント



- ・折りたたむとき、「カチッ」とロックする音を確認してください。
- また、ベビーカーのハンドルを少し持ち上げて確実にロックされていることを確認してください。
- ・背もたれを寝かせた状態で折りたたみにくいと感じたときは、背もたれを起こすと折りたたみやすくなります。
- ・ハンドルを引き上げ、そのままハンドルを押し下げても、折りたたむことができます。



4. 手元ロックスライダーから手を離し、折りたたみをロックする。

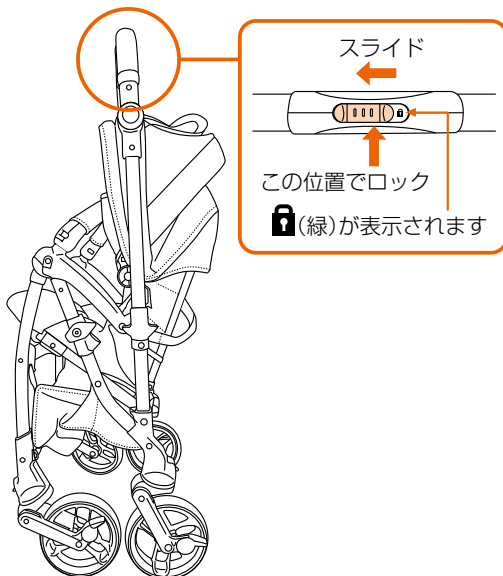
折りたたみレバーが元の位置に戻り、自動でロックされます。

ロックされていることを必ず確認してください。

ワンポイント



折りたたんだ後、自立しにくい場合は、キャスターの向きが背面のときの進行方向を向いていることを確認してください。



持ちカルグリップの使いかた

●持ちカルグリップは、ベビーカーを折りたたんだ状態で持ち運ぶときに使用します。

⚠ 警告

●お子さまを乗せたまま使用しないでください。手がすべったり、ベビーカーが転倒してお子さまが落ちるおそれがあります。

⚠ 注意

- 持ちカルグリップに過度の力を加えないでください。故障や破損の原因となります。
- 必ず折りたたんだ状態でご使用ください。
- 本来の目的以外で使用しないでください。

折りたたんだ状態のハンドル側から、シートフレームに付いている持ちカルグリップをつかむ。

脇の下にハンドルをはさむように使用してください。
(右図参照)

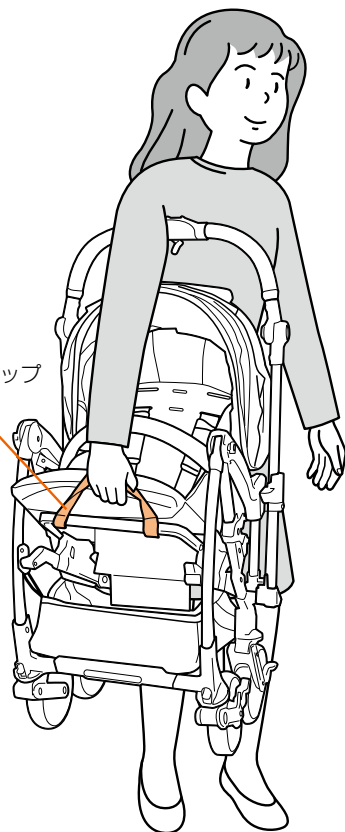
持ちカルグリップは、シート座面部下のシートフレームに付いています。

シート座面部

持ちカルグリップ

シートフレーム

持ちカルグリップ



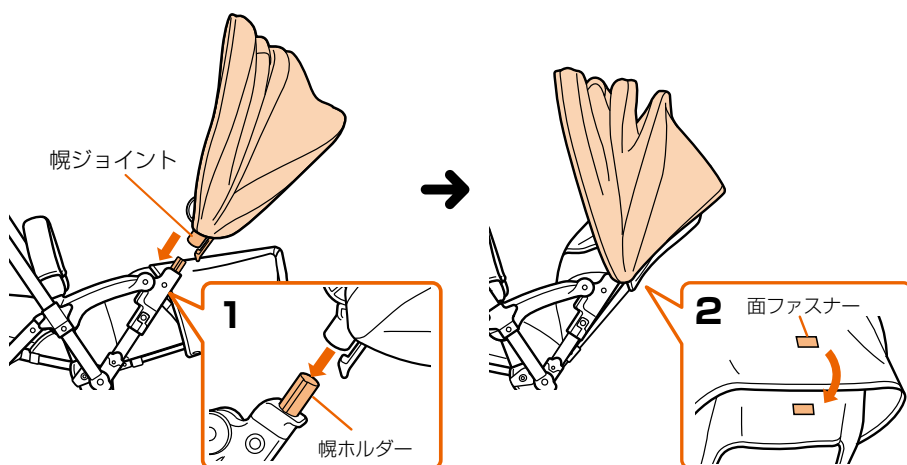
部品の取り付けかた・はずしかた

幌の取り付けかた、はずしかた

取り付けるとき

● 梱包時、幌は車体に固定されていません。

1. 幌ジョイントを幌ホルダーにしっかり差し込み固定する。
2. 背もたれを起こし、面ファスナー（1カ所）をとめる。



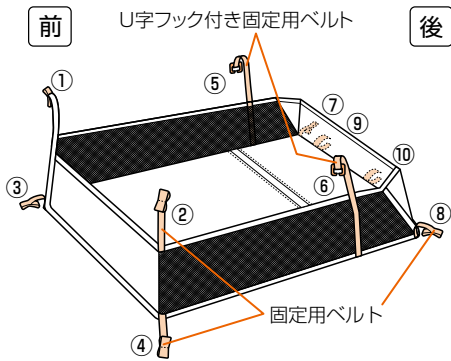
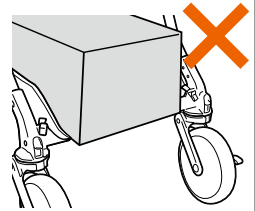
はずすとき

取り付けるときの手順を逆に行ってはずしてください。

カゴの取り付けかた

⚠ 注意

- ・耐荷重以上の荷物はのせないでください。破損の原因となります。
- ・固定用ベルトやU字フック付き固定用ベルトは指定の位置にしっかり取り付けてください。
- ・角のとがったものや、カゴからはみ出す容積の大きいものは入れないでください。荷物の落下やカゴの変形およびやぶれの原因となります。
- カゴに荷物を入れたままベビーカーを折りたたむとき
- ・無理なく折りたたみできることを確認してください。ベビーカーの破損や荷物のつぶれの原因となります。
- ・変形ややぶれやすい荷物は避けてください。
- ・荷物を入れていない状態に比べて転倒しやすくなります。
- ・荷物を入れたまま折りたたんだ後や、荷物を入れた状態からベビーカーを開いた後は、開閉ロックがしっかりかかっていることを確認してください。



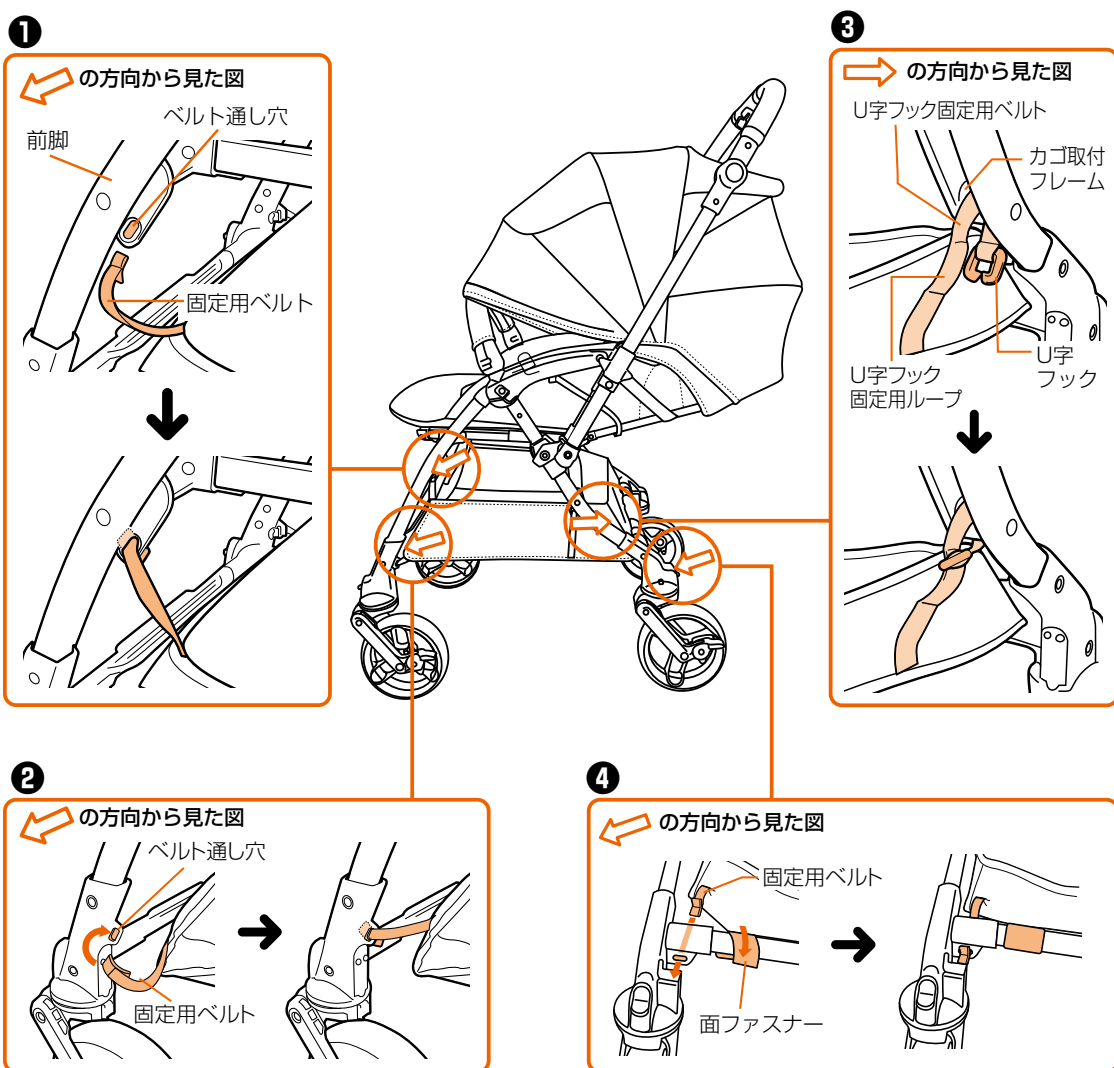
耐荷重5kg

※荷物はできるだけカゴ底に均等に荷重が加わるようにのせてください。

1. ①カゴの前上部にある固定用ベルト
①、②を前脚中央のベルト通し穴に通してとめる。
- ②カゴ前下部にある固定用ベルト
③、④をキャスター上部のベルト通し穴に通してとめる。
- ③カゴの中間部にあるU字フックつき固定用ベルト⑤、⑥を、イラストのカゴ取り付けフレームに上から巻き付けてU字フック固定用ループにとめる。

- ④カゴ後部の両端にある固定用ベルト⑦、⑧を後脚ステーの左右のベルト通し穴に通してとめる。
カゴ後部中央にある固定用面ファスナー⑨、⑩を後脚ステーに巻き付けてとめる。

2. 最後に、固定用ベルト、面ファスナーがそれぞれしっかりとまっているか、引っぱって確認する。



着脱シートのはずしかた、取り付けかた

⚠ 警告

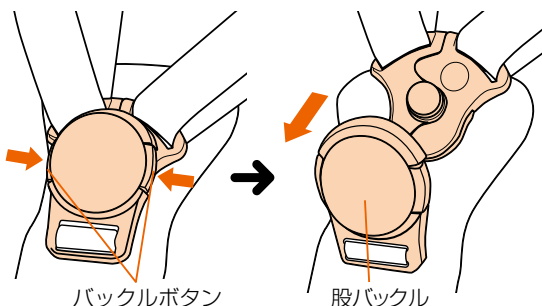
- 着脱シートを取りはずしたままお子さまを乗せないでください。すき間に手や足をはさむおそれがあります。
- やぶれやほつれの発生した着脱シートはそのまま使用しないでください。中のワタをお子さまが飲み込んだり、着脱シート本来の機能が果たせなくなるおそれがあります。
- 着脱シートを取り付ける際に、ホック類を確実にセットしてください。取り付けが不完全の場合、ケガややぶれなどの原因となります。また、着脱シートのはさみ込みにより、開閉操作やキャストの動きに動作不良を起こすおそれがあります。
- 肩ベルトを取り付ける際は、ベースシートの肩ベルト受けに止め具を通し、肩ベルトを2～3回引っ張り、はずれないことを確認してください。
- 着脱シートの肩ベルト通し穴位置は、ベースシートの肩ベルト受けと同じ高さの通し穴を使用してください。通し穴の上中下の高さが異なると、ベルトの長さが足りなくなります。
- 背もたれを頻繁に倒したり起こしたりする月齢期は、下の肩ベルト通し穴を使用してください。
- ベースシートに装着したあと、肩ベルトがねじれていないことを確認してください。

※着脱シートについて

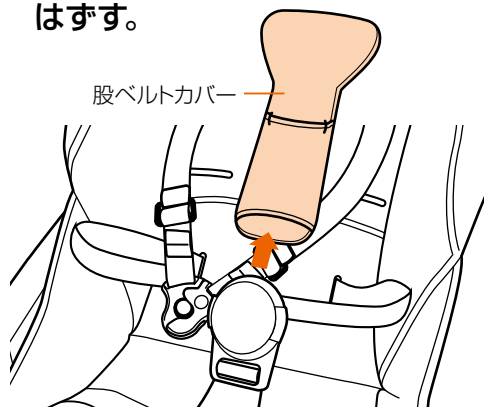
お子さまの服や靴に面ファスナーが付いている場合は、シートに面ファスナーが付着しないように気をつけてください。メッシュ生地に引っかけて傷つけるおそれがあります。

はずすとき

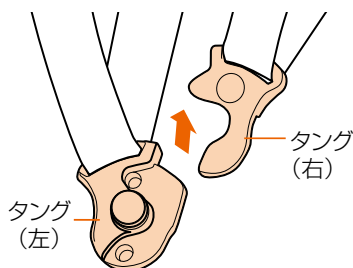
1. ①両脇のバックルボタンを同時に押し、股バックルを上に取り上げ、はずす。



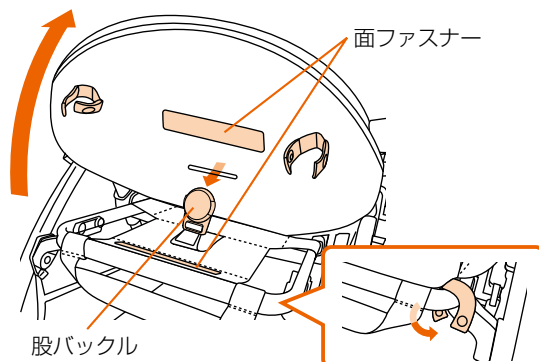
2. ②股ベルトから股ベルトカバーをはずす。



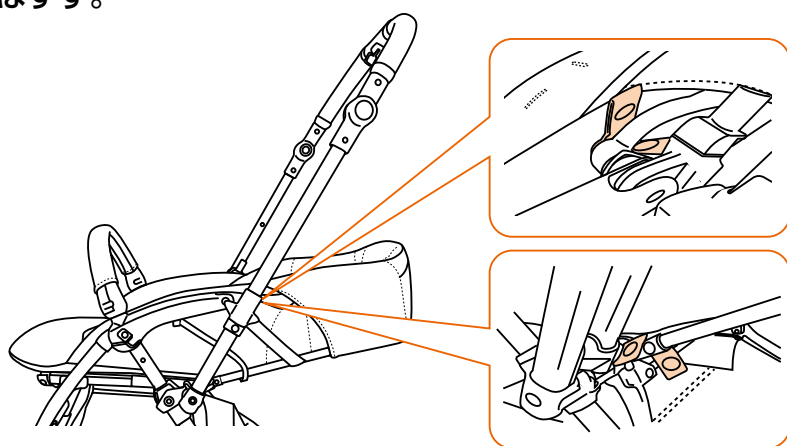
3. タングを前後にはずす。



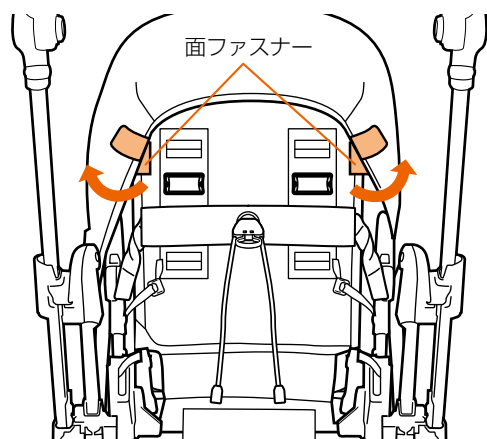
4. シートフレームのとめてあるホック（左右1カ所ずつ）をはずし、着脱シートから股バックルを引き抜く。



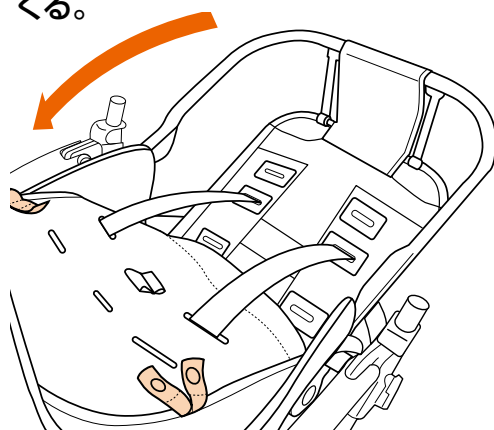
5. 側面のフレームとベースシートの座パイプにとめてあるホック (左右2カ所ずつ) をはずす。



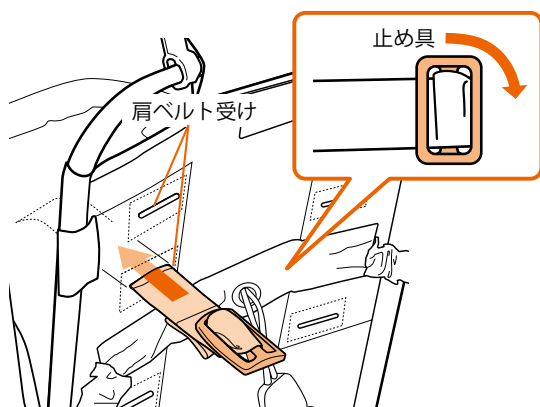
6. 背もたれ裏側の、着脱シート両側の面ファスナー (2カ所) をベースシートからはずす。



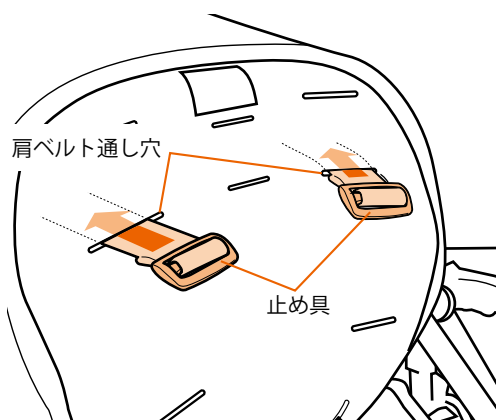
7. ベースシート上部の背パイプにとめてあるホック (左右1カ所ずつ) をはずし着脱シートを背もたれ側からめくる。



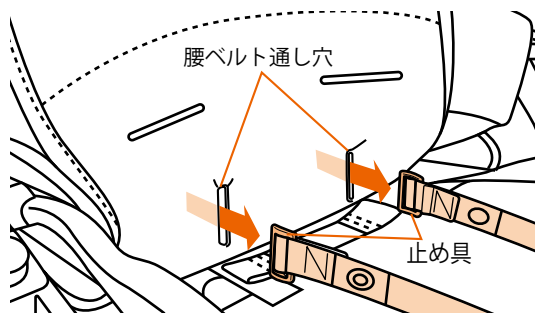
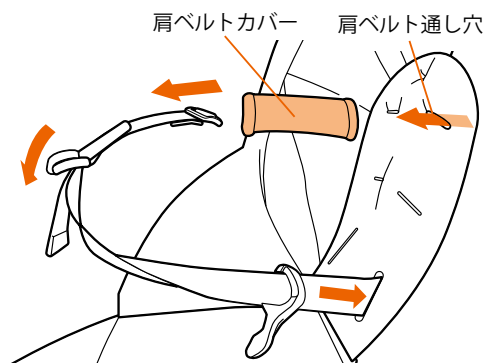
8. ベースシートの裏側から肩ベルトの止め具をたてにまわし、肩ベルト受けからベルトを引き抜く。



9. 着脱シートの肩ベルト通し穴から、肩ベルト (止め具まで) を引き抜く。



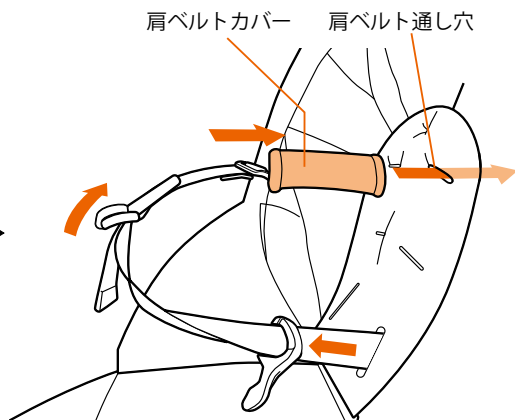
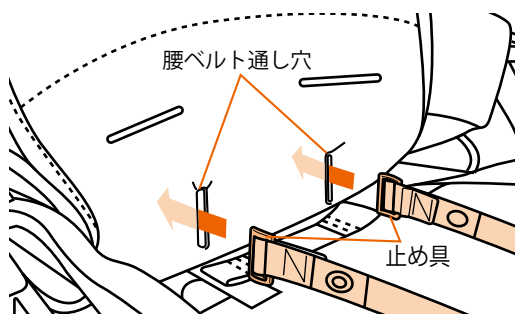
10. 肩ベルトカバーのホックをはずし、肩ベルトから抜く。着脱シートの腰ベルト通し穴からシートベルト（肩ベルト、腰ベルト、タング）を裏側へ引き抜き、着脱シートをベースシートからはずす。



取り付けるとき

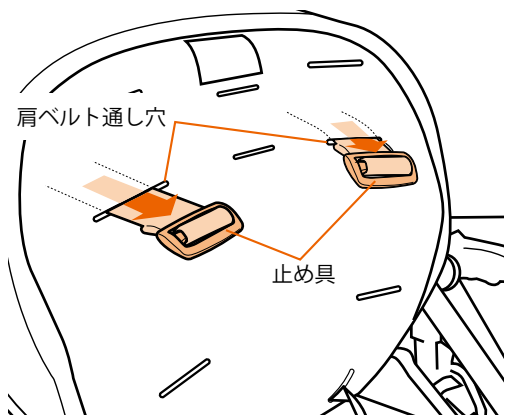
- 1. 着脱シート裏側の腰ベルト通し穴からシートベルト（肩ベルト、腰ベルト、タング）を通し、**

表側に引き出す。肩ベルトに肩ベルトカバーを通しホックをとめる。



- 2. 着脱シートの肩ベルト通し穴に肩ベルト（止め具）を通し裏側に引き出す。**

- 3. 肩ベルトの止め具をたてにまわし、ベースシートの肩ベルト受け部に通す。**

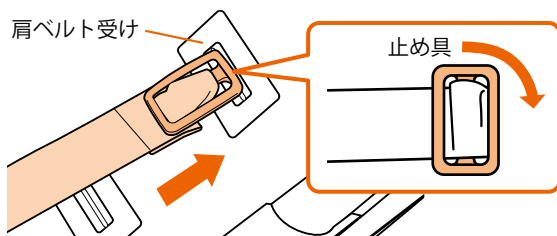


⚠ 警告

●肩ラダーをベースシートの肩ベルト受け部に通さないでください。使用中にベルトが抜けるおそれがあります。

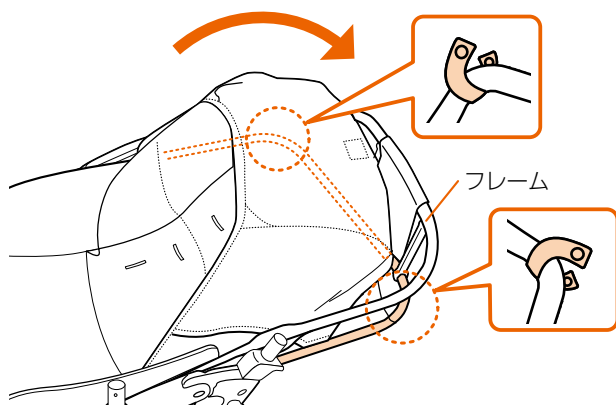
✗

肩ラダー

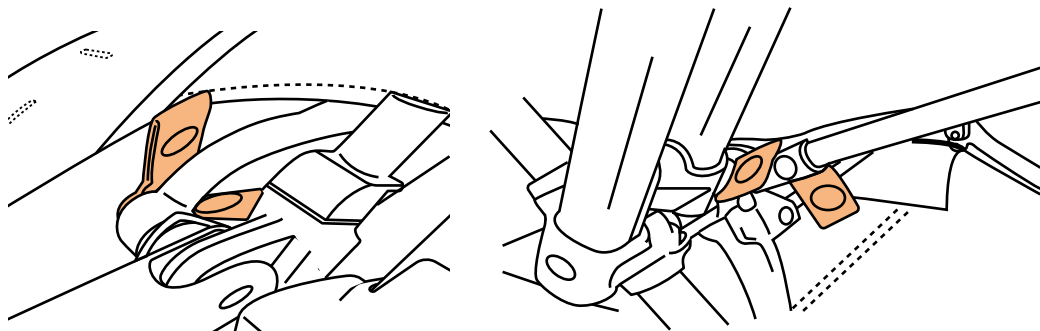


●「背もたれの起こしかた」は21ページをご覧ください。

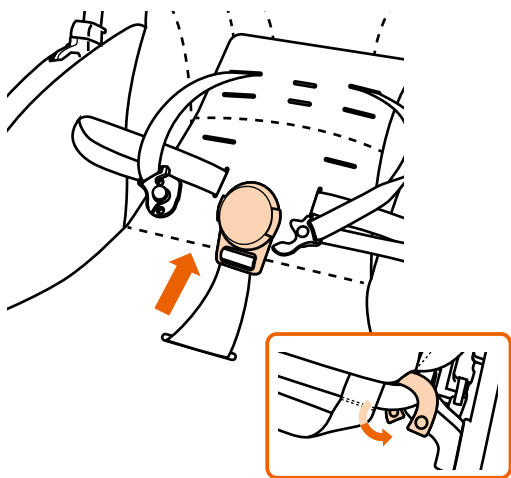
4. ベースシート上部の背パイプにホック（左右1カ所ずつ）をとめる。



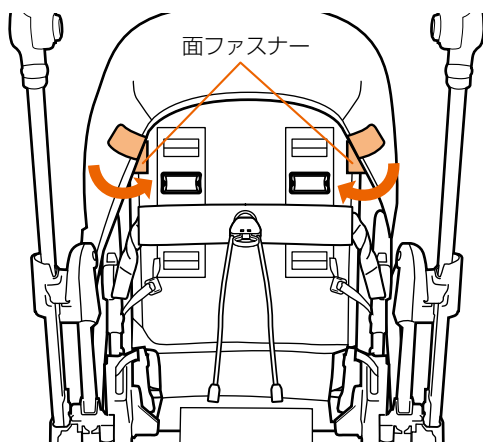
5. 側面のフレームとベースシートの座パイプにとめてあるホック（左右2カ所ずつ）をとめる。



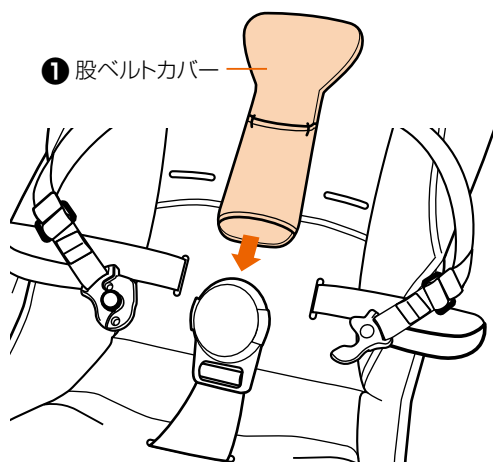
6. 股バックルを着脱シートの表側に引き出し、座面のシートフレームにホック（左右1カ所ずつ）をとめる。



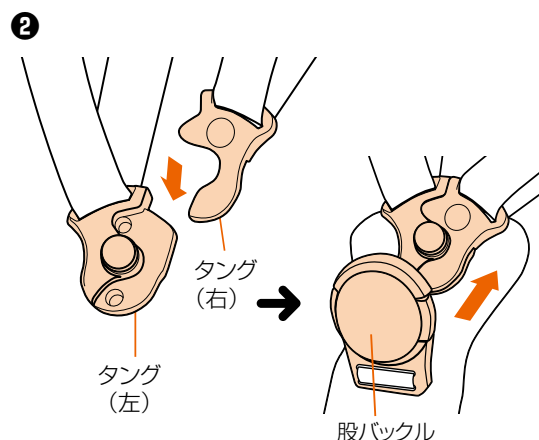
7. 着脱シート裏側の面ファスナー（2カ所）を、ベースシートの面ファスナーにとめる。



8. ①股ベルトカバーを通す。



②左右のタングを組み合わせ、その上に股バックルを重ねる。



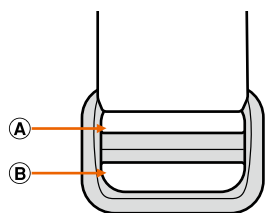
ワンポイント

- ・ベースシートの肩ベルト受け上中下位置は、着脱シートの肩ベルト通し穴と同じ高さを使用してください。上中下を間違えて取り付けると、ベルト長さが足りなくなるおそれがあります。
- ・背もたれを頻繁に倒したり起こしたりする月齢期は、下の肩ベルト通し穴を使用してください。
- ・肩ベルトは、注意ラベル側を表にして使用してください。

シートベルトの取り付けかた

肩ラダーにシートベルトを通すとき

肩ラダーのベルト通し (A)(B)



⚠ 警告

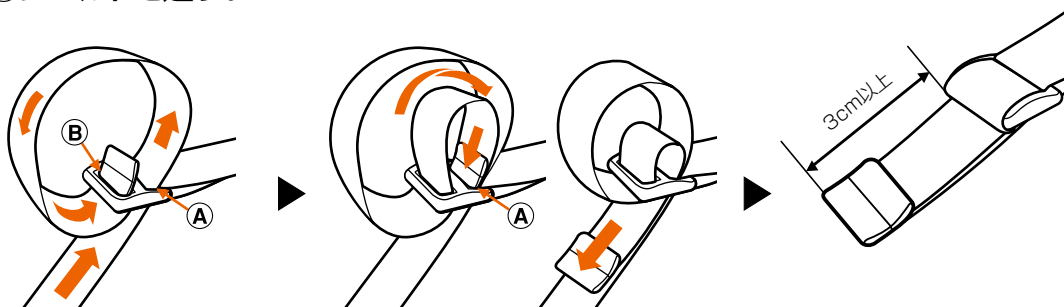
- 手洗いで洗濯時以外は、肩ラダーからベルトをはずさないでください。はずした場合は取り付け方法に従い、正しく取り付けしてください。
- 肩ラダーへのベルトの取り付けかたが、不完全な場合、使用中にベルトが抜けるおそれがあります。
- ベルトを肩ラダーに取り付け後、ベルトを強く引っ張り、確実に取り付けられていることを確認してから、使用してください。
- 肩ベルトの止め具側にシートベルトを通さないでください。使用中にベルトが抜けるおそれがあります。

1. 肩ラダーのベルト通し

①Aに裏からベルトを通し、ベルト通し裏から②Bにベルトを通す。

2. 肩ベルト通し①Aに ベルトを通す。

3. ベルトの端が3cm以上 残るように調節する。



※ シートベルトからタングをはずすときは肩ラダーからベルトをはずす操作が必要になります。

ダッコシートの使いかた

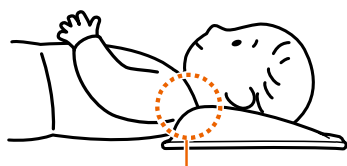
- ダッコシート(ヘッドサポート、おしりサポート)は、お子さまの体格にあわせた取り付け位置でお使いください。

⚠ 注意

- 背もたれを起こした状態で使用する際、お子さまの頭がヘッドレストの位置にくる場合には、ヘッドサポートを使用しないでください。
- やぶれやほつれの発生したダッコシートはそのまま使用しないでください。中のクッション材をお子さまが飲み込んだり、ダッコシート本来の機能が果たせなくなるおそれがあります。

ヘッドサポートの取り付け 位置の目安

ヘッドサポートは、お子さまの首のあたりにクッションの凸部がくるように取り付けてください。



首にくるように取り付け

ダッコシートの取り付け時期の目安

	1ヵ月	おすわり (7ヵ月ごろ※)	36ヵ月
ヘッドサポート	←→		
エッグショックパッド	←→		←→
	ヘッドサポートの中		着脱シートの中
おしりサポート	←→		

※ 月齢は目安です。お子さまの発達にあわせてご使用ください。

ヘッドサポートの取り付けかた

ヘッドサポートのみで使用する時

ヘッドサポートを着脱シートに 取り付ける。

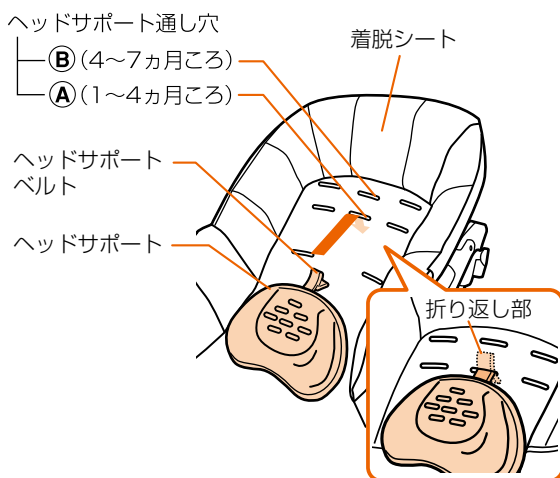
ヘッドサポートベルトを、ヘッドサポート通し穴に通し、ベルト先端の折り返し部を通し穴に引っかけて取り付ける。
取り付け後、着脱シートにとまっているか、軽く引っばって確認する。

ヘッドサポート通し穴④⑤の 目安について

④は1ヵ月～4ヵ月ごろまでの月齢のお子さま

⑤は4ヵ月～7ヵ月ごろまでの月齢のお子さまに使用してください。

※月齢は目安です。お子さまの発達にあわせてご使用ください。



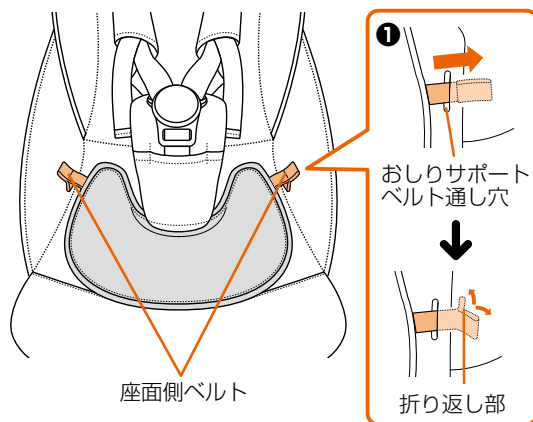
おしりサポートの取り付けかた・はずしかた

取り付けるとき

※おしりサポートはベビーカー本体に付いていますが、ベルトが固定されておりません。取り付け方法に従い、正しく取り付けしてください。

1. ①座面側ベルトを、着脱シートのおしりサポートベルト通し穴に通し、ベルト先端の折り返し部を引っかけてとめる。
- ②股バックルをおしりサポートに通す。股ベルトカバーの着脱については、28～32ページをご覧ください。

取り付け後、ベルト先端の折り返し部が着脱シートの通し穴にとまっているか、軽く引っばって確認する。



ワンポイント

3歳未満でもお子さまの体格によっては、おしりサポートがあわなくなることがあります。その場合は使用を中止してください。

はずすとき

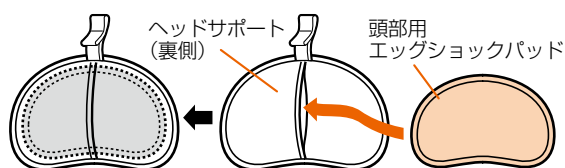
取り付けるときの手順を逆に行ってはずしてください。

頭部用エッグショックパッドの取り付けかた

ヘッドサポートで使用するとき

- ダッコシートのヘッドサポートには、走行中のゆれからお子さまを守る“エッグショックパッド”を入れることができます。

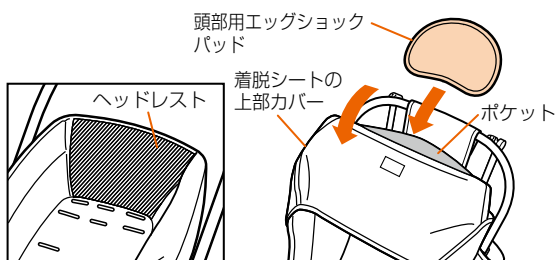
ヘッドサポートの裏側から出し入れする。



着脱シートで使用するとき

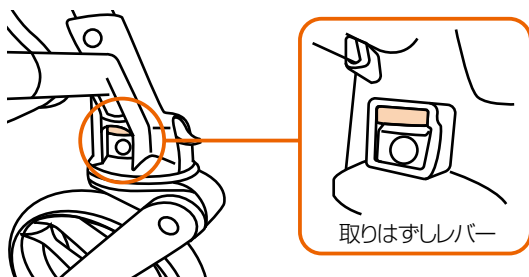
- お子さまの頭がヘッドレストの位置まで届くようになったときには、ヘッドサポートをはずし着脱シートのポケットに入れて使います。

着脱シートの上部カバーをはずし、ヘッドレスト裏側のエッグショックパッド用ポケットに出し入れする。



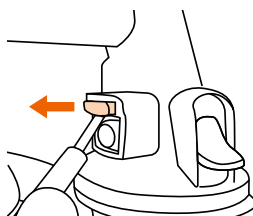
前後車輪のはずしかた

- 取りはずしレバーをドライバーなど先の細いものを使って引き、ロックを解除します。車輪を下方方向に引き抜き、車体からはずします。



ドライバーなど先の細いものを使って引きます

下方方向に車輪がはずれます



日常のお手入れ

縫製品の洗濯について

- ※幌のプラスチック部分やカゴのU字フックなどでケガをしないように注意してください。
- ※製品の特性上、若干色あせすることがあります。
- ※洗濯の際は中性洗剤をおすすめします。蛍光剤・漂白剤入りの洗剤は肌荒れ、湿疹などのおそれがありますので使用しないでください。
- ※保管状態により、カビが発生することがあります。こまめに洗濯をし、清潔に保つように心がけてください。
- ※ファスナーや面ファスナーが付いているものは、ファスナーは閉じ、面ファスナーはオス、メスをあわせてから洗濯してください。
- ※腰ベルトを洗う際は、タングをあらかじめ取りはずしてください。

洗濯時は次のことを守ってください。

洗濯上の注意

	液温は40℃を限度とし、洗濯機で非常に弱い洗濯ができる		アイロン仕上げ禁止
	塩素系および酸素系漂白剤の使用禁止		ドライクリーニング禁止
	タンブル乾燥禁止		非常に弱い操作によるウェットクリーニングができる
	日陰のつり干しがよい		

- 着脱シート、ダッコシート（ヘッドサポート、おしりサポート）、頭部用エッグショックパッド、ガードカバー、肩ベルトカバー、股ベルトカバーの洗濯
 - 水、またはぬるま湯で洗濯機の弱水流または手洗いしてください。
 - 洗濯機をご使用のときは、洗濯用ネットに入れてください。ほつれや傷みの原因となります。
 - きつてもみ洗いはしないでください。
 - 色落ちすることがありますので、他の洗濯物とは別に洗ってください。また、つけ置き洗いも避けてください。
 - 十分にすすぎ、軽く脱水した後、形を整えて陰干ししてください。
 - 乾燥機の使用やドライクリーニングはできません。
- 肩ベルト、腰ベルトの洗濯
 - 手洗いしてください。
 - 洗濯機は使用しないでください。
 - きつてもみ洗いはしないでください。
 - 色落ちすることがありますので、他の洗濯物とは別に洗ってください。また、つけ置き洗いも避けてください。
 - 十分にすすぎ、軽く脱水した後、形を整えて陰干ししてください。
 - 乾燥機の使用やドライクリーニングはできません。
- 幌、カゴ、股ベルトのお手入れ
 - 幌やカゴ、股ベルトは液中につけず、水、またはぬるま湯の洗剤を付けたブラシやスポンジなどを使用して、汚れをふき取ってください。
 - 洗剤を使用して汚れを取った後は、水を含ませた布やスポンジで洗剤分が残らないように数回ふき取ってください。
 - 乾かすときは、乾いた布で水分をふき取り、陰干ししてください。

車体の清掃について

⚠ 注意

車体の清掃は水ぶき以外はしないでください。部品の変質、劣化の原因となります。

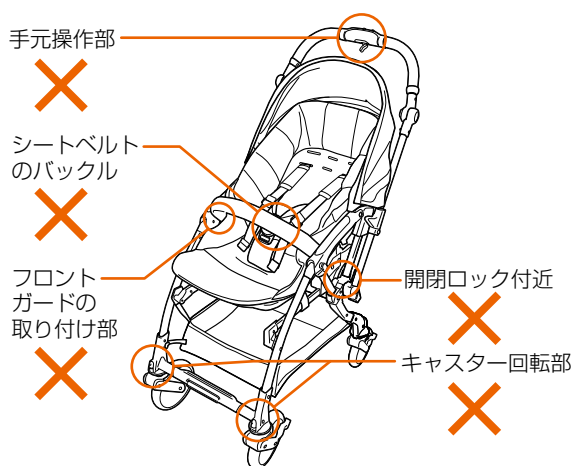
- バックルの表面に砂鉄などの異物が付着した場合は、粘着テープなどを使用すると取り除きやすくなります。
- 車体やプラスチック部品および金属部品、バックル類、ハンドルグリップの汚れは水を含ませよくしぼった布でふき取ります。

注油について

⚠ 注意

お子さまがなめる可能性の高いフロントガード、アームレストなどには油が付着しないようご注意ください。

- きしみが発生したり、作動が鈍くなって注油が必要と思われる場合は、必ず潤滑油（シリコン系）を少量、注油してください。注油するときは、注油部分の泥や汚れをあらかじめふき取ってください。また、注油量が多すぎると、ほこりが付きやすく、かえって機能を低下させます。
- 右に示す部分には注油しないでください。作動不良を起こす原因となります。

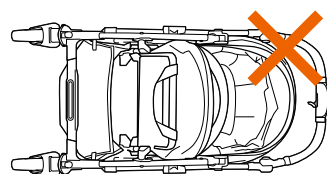


保管のしかた

直射日光を避け、湿気が少なく雨やほこりがかからない場所に立てて保管してください。屋外で保管する場合はカバーをかけることをおすすめします。

⚠ 注意

- 火の近くや夏季の車内など高温になる場所での保管は避けてください。
- ベビーカーに荷物を重ねた状態で保管をしないでください。故障や変形の原因となります。
- ベビーカーを寝かせて保管する場合は、背面を下にしてください。
- 横向きに寝かせて保管をすると、故障や変形の原因となります。
- ベビーカーを立てた状態で保管する場合は、前輪のキャスターを内向きにロックし、必ずストッパーをかけてください。ロックしないとベビーカーが倒れやすくなります。



点検とアフターサービスについて

- ご使用前に、締結部品のゆるみ、部品の欠損および作動不良などの異常がないか点検してください。
- ご使用中に車体の破損、異常、締結部品のゆるみ、タイヤの摩耗、シートおよびシートベルトにやぶれ・ほつれなどが発生した場合や、部品の交換または修理が必要な箇所を発見した場合、ただちに使用を中止して当社コンシューマープラザにご連絡ください。
そのまま使用しますと、重大な事故につながるおそれがあります。
お問い合わせの際は、車体後側から見て右のパイプに貼ってあるシールをご覧ください。製品名・ロットNo.をお知らせください。
- 製品の改造や不当な修理をしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お手入れの際に取りはずした部品は、本書をよく読み正しく取り付けてください。取りはずしたままですとお子さまが危険です。
- 本製品の修理／部品販売は、原則として製品の製造中止から3年後までとなります。この期間内でも該当部品の在庫がなくなった場合、対応できないことがあります。また、色や仕様が若干異なる部品で対応させていただく場合もあります。あらかじめご了承ください。

コンシューマープラザ (Customer Service Center)

〒339-0025 埼玉県さいたま市岩槻区釣上新田271
TEL. (048) 797-1000
FAX. (048) 798-6109

コンシューマープラザ (Customer Service Center) / 西日本担当

〒540-0026 大阪府大阪市中央区内本町2-4-16
TEL. (06) 6942-0379
FAX. (06) 6942-0302

ベビーカーの『標準使用期間』について

ベビーカーの『標準使用期間』は「新規購入後5年」です。

標準使用期間を経過した場合、部品の経年劣化により、本来の性能を果せず危険を招くおそれがあります。不測の事態に備えてご使用をお控えください。

- 新規購入日を記録するために、販売店発行のレシート（領収書）と取扱説明書を必ず保管してください。
- 標準使用期間内においても、使用方法や環境、保管条件により故障する場合があります。この期間の品質を保証するものではありません。品質保証書に記載している「お買い上げ日より1年間」の保証期間を過ぎた場合の修理は有償となります。
- 標準使用期間を過ぎた製品の修理は、製品全体の安全性の観点からお引き受けできません。
- 使用履歴が不明な製品の再利用はお控えください。

廃棄方法について

- お住まいの各自治体の指示に従い、処分・廃棄してください。

SG マークの被害者救済制度

SG マーク付き製品の欠陥により、人身被害が生じたと認められる場合、製品安全協会が事故原因、被害の程度などに応じて、賠償措置を実施する制度です。ベビーカーの場合は、お買い上げ日より4年以内が有効期間となります。

●賠償についてのご注意

認定された製品そのものが故障したとしても、その品質について保証するものではありません。あくまでも傷害などの身体的な損害（人的損害）について賠償する制度です。

●製品の欠陥により事故が起きた場合

損害を被った消費者（お子さまなどの場合は、保護者）が、事故発生日から 60 日以内に下記までご連絡願います。

一般財団法人 東京都台東区竜泉 2 丁目 20 番 2 号
製品安全協会 ミサワホームズ三ノ輪 2 階
<https://www.sg-mark.org/reparation/>

●事故の届出に必要な項目

- ① 事故の原因となった製品現品
 - ・製品名称、ロット No. ・購入先、購入年月日
- ② 事故発生の状況
 - ・事故発生年月日 ・事故発生場所 ・事故発生状況
- ③ 被害の状況
 - ・被害者の氏名、年齢、性別、住所 ・被害の状況